關西大學新聞

(毎月二十日一回發行)

本紙定價 一部金五錢
廣告料 一行十四字詰 十五錢
大阪府豐中市新免八八六番地 島田方
編輯兼發行印刷人 安田義哲
發行所 大阪府三島郡千里村片山一七
關西大學千里山學友會新聞部
電話吹田一一二三番
振替大阪二二八七五

九十號原稿募集

時代的轉換は文化建設にあり
諸君よ日頃の蘊蓄をかたむけ投稿されよ
〆切拾日前後規定通り
新聞部

第十四回
自肅する大學祭
余興、講演會、趣味展は中止
二十二日愈よ舉行

遠く大正十年現千里山グラウンド完成を記念して創められた〃大學祭〃は本學年中行事の最高峰を行き、且つ大學と市民との融和を圖り年々好評嘖々として親しみを以て迎へられ、躍進關大の青春の意氣高らかに桃源郷千里山を祭り氣分横溢の一色に塗りつぶし、年々進歩と充實されて行く樣は正に大阪の一名物の觀があつたのである、然るにかの蘆溝橋の銃聲一發は支那事變勃發となり既に三秋、巷間にありては自肅自戒を要望せられ、總努力を以て東亞新序建設と一路邁進するこの邦家非常時を告ぐるの秋、伸びゆく本學を表象する第十四回の大學祭をこゝに迎へんとしてゐる

〃非常時大學祭〃
千里山委員會の意向決定

古き歴史を誇る本學は明治十九年東區淡路町に孤々の聲をあげてより若きながらも躍進又は躍進を重ね、專門學校令による私立關西大學と稱しながら附屬關西甲種商業學校の創設とまつて今日の雄飛に備へて居たが、大正十年遂に待望の新大學令による大學設立、自然の秀麗を誇る千里山に新校舍を移し名實ともに此處に本學の基礎を植つけたのであつた、かくして日進月歩、學の道に、將またスポーツに眞理の花咲き亂るゝ千里の山の象牙の塔を開き本學獨自の尊き自治の學風、精神とを汎く社會一般に認識理解せしめ來たのである我等が殿堂を解放し、この大學祭において具現せらるゝ協同連帶の精神、關大建學の精神を高揚する所に意味がある、以來星霜十二年但々として月日は流れ、本年は非常時局に直面して〃非常時大學祭〃となつたのである、去る六月に大學祭についての準備委員會が開催されたが、本月の二十二日になほ一層具體化すべく千里山學友會委員會を開き大學祭の全貌を明にし、その種目及び役員等について種々と評議した、卽ちその細目は式典、體育大會、相撲、庭球、模擬戰、野試合でこれより見れば去年の大學祭より一層短縮され、時局の重大性に鑑み止む得ずとしてゐる、なほ學外講演會及び趣味展覽會は部長會議によつて否決された、千里山學友會の意向は斯の如きものであるが、一方天六學友會の大學祭に對する具體的な意向は未だ明確でないが、部長會議のないためその意向もはつきりとするであらう、時局は長期戰の體制を整へるに至り物資節約り簡素に且つ嚴肅裡に行ふべくその一端として事變前までは對自肅自戒の見地から出來得る限外にも汎く宣傳しこれに呼應して京阪電鐵においても對外宣傳に大童であつたが、今回はこれを行はず、京阪電車の當日の割引切符の發行を廢止し、自肅自戒を以て望む害である、併しながら一方においては年に一回の行事であり、父兄を招待するのであるから電車割引は考慮の餘地があるとの意見も擡頭してゐる、なほ昨日(二日)の三部合同委員會の席上で大學祭に關する件が上提され專門部側の提案に千里山學友會側も歩み寄り、結局廿二日(日)に開催することに決定した、卽ち當日は午前九時より式典舉行、次いで體育大會を行ふ豫定でこれに關する豫算は七〇〇圓である

大學祭各部門の役員は次の如くである

▼總務＝平野、足立▼掌典係＝之野、藤本▼體育係＝坂口、鈴木▼受付係＝中井、江後▼設備係＝吉田、山元▼場內係＝得丸、高橋▼接待係＝中平▼看護係＝河村▼體操係＝渡邊▼記錄係＝入江▼角力係＝中西

ホッケー部
期待さる秋のシーズン
一路全日本制霸へ
合宿中に全關西を降す

本學ホッケー部では去る八月二十七日より九月五日迄十日間にわたり堺大濱運動場で共に合宿されて指導に當られた大谷氏をはじめ諸先輩の連日にわたる熱心な指導の下に夏季合宿を舉行した、全部員は朝は五時半に起床し學歌と共に部旗を揭揚し一日三回の猛練習もホッケーの金言「敗戰に涙するよりもその日の練習に涙せよ」――の下に全く炎熱下の大濱グラウンドで涙の練習を行つた部員一同は如何なる猛練習も苦鬪も總てこれが關大ホッケー部のためにならば敢て辭せずとの決心で部員總親和のもとに三回目の練習を終へ太陽が大濱海上に將に沒せんとするころ再び學歌齊唱のうちに部旗を降下する時の部員の元氣ほど清純なるものは無かつたと云ふ、その間不幸猛練習のため二三名の傷病者を出したが好成績を收めて十日間の合宿を終へ、合宿中の九月三日には熱心な多數の堺市民觀戰の下にホッケー模範試合を左の通り行つた

關大新人 4 (2―1 2―1) 千里山俱 2
關西大學 3 (3―0 0―1) 全關西 1

現在日本のホッケー界においても全關西軍と云へば恐れられてゐるチームであつて、同部が昨年秋全日本選手校の關西代表決定戰に二對一で敗れ不幸全日本制霸の大業の夢は敗れたのもこの全關西軍のためであつたが、是が非ともこの雪辱を期すべく合宿中は專心打倒全關西軍を目指して行つたその甲斐あつて遂に堂々と三對一でこれを降し得たのは合宿中の最大の快事であつたなほ新人も千里山クラブを堂々四對二で破り、將來への期待に更に拍車を掛くるに至つた

既に九月も終り十月に入りていよ〳〵試合だ!!去る十五日より東西のリーグ戰は開始したが關大のみは專門部の試驗上止むなく十月に繰上げて行ふことゝなつた、秋のリーグ戰は全日本選手校關西豫戰と兼ねてのゲームにしてリーグ優勝校は勿論關西代表として全日本に出場するのであるが、同部は「今年こそは如何なることがあつても全日本の制霸を期せん」と大業に邁進の臍を固めてゐる、合宿の猛練習を終へて戰鬪態勢を固めたホッケー部こそ秋のスポーツシーズンにわれらがホープに應へて與れるであらうことを期待しやう、頑張れ！ホッケー部、なほリーグ戰日割と秋のスケジユールは次の通り

十月八日＝關大―三高(於京大) 十月十五日＝關大―京大(於千里山) 十月廿二日＝關大―神大(於千里山) 十月廿八、九日＝全日本學生ホッケー選手權大會、十一月一日＝厚生大會、十一月廿日＝對神戶新人戰、十二月三日＝早大戰、十日＝明大戰、廿五日＝慶大戰、十七日＝立大戰(十一月十二日ごろ七日間東京遠征豫定)

山の感觸
夏山征服記
山岳部

千里山山岳部は今夏一般學生諸君若干名と共に、左記のごとく四班に分れそれ〴〵豫定のコースを踏破し全員無事歸還した

(一) 立山縱走＝水津、濱田、八代、青木(七月十五日―七月三十日)富山―弘法―劍澤―劍岳―立山―五色―藥師岳―三俣蓮華―双六―槍ケ岳―德澤

所謂登山家の誰もが憧れ一度は踏破すべき縱走路である、このコースは連日絕好の快天氣きであつたが、泊場の都合惡く連日强行につぐ强行は落伍者を出したりしたけれども眞黑に日焦けした一同の姿は眞に賴もしく二十一日夕方主班は無事德澤ゴールへ飛び込んだ

(一) 德澤生活＝(參加者九名 七月十五日―七月三十日)

涸澤天幕は穗高岩場のコンデイション惡く德澤に天幕を移し此處を根據に、槍或は穗高登攀、または絕景を賞しつゝ上高地へ散策、燒岳に到つ――渦卷く噴煙を身に浴び、或は清流梓川の鮎釣等に興じ時には敢然起つて槍穗縱走等、若き日の一頁を飾る懷しい半月であつた

(一) 笠ケ岳コース＝山奧(七月二十四日上高地出來―同二十七日着)上高地―槍ケ岳―双六―笠ケ岳―クリヤ谷―槍見溫泉―燒岳―上高地

岩に雪に氷に、登り疲れた者が心を慰めるべき好適のコース

(一) 大杉峽谷＝山奧、米爲、山野、駒井、古泉、白柳(八月五日―八月十日)

萬端の準備を整へて出發したのではあるが、惡天候に禍ひされ僅に大杉上流よりその一端を覗いたのみにて終る、別班は大臺ケ原登攀(山奧記)

興亞奉公日

〃秋のスポーツ〃
北野中學堂々優勝
千里山 射擊部主催
全國中等射擊大會

過ぎし第九回大會の時、東久邇宮殿下の台臨を仰ぐの光榮に浴した千里山射擊部主催全國中等學校射擊大會はその後愈々隆盛この種大會の白眉として斯界に注目されてゐたが、今年第十三回を迎へ去る一日興亞奉公日の良き日參加校四十五校(尚これは締切後多數申込あれど拒絶したもの)遠く四國より丸龜中、高松中、中京より愛知一中の強剛を集め尙同大會を意義あらしむるため、京阪神大學高專七校を招待、午前九時城南射擊場に於て開催、折柄の日本晴れに銃後學徒の意氣大いに上り一發々々に日ごろ鍊磨の腕を示し、途中晝食は奉公日にふさわしく日の丸辨當に舌鼓を打ち午後四時半殘多の激戰を展開も終りを告げ一同集合閉會、個人の表彰を行ひ、幕を閉じた、同大會の結果は

▲中等學校之部

優勝	北野中學	一九二點
二位	平安中學	一六八點
三位	奈良師範	一六八點
四位	和歌山中學	一六五點
五位	海草中學	一六四點
六位	京都一工	一六三點
七位	奈良中學	一六〇點
八位	桃山中學	一五九點

(以下略す)

▲個人之部

一位 土谷君(奈良師)四九點
二位 小林君(今宮中)四四點
三位 堀部君(北野中)四二點

▲大學高專招待射擊之部

優勝―關西學院大學 二位―甲南高校 三位―同志社大學 四位―立命館大學 以下略す

◇泌みる秋◇

蒙疆
豫科 入田順雄

蒙疆とは蒙古民族固有の定住地域を総稱するのであるが、こゝにいふ蒙疆とは察南、晉北、蒙古聯盟の三自治政府の管轄區域內を指稱するものである、三自治政府を包括する蒙疆の位置は先づ東方大興安嶺を境として滿洲國に接し、西は寧夏、甘肅に南は內長城線を境として支那本部にそれ〴〵接續してゐる、また北方一帶はゴビの沙漠を控へ、漠北に續くところ赤化外蒙古がある。蒙疆一體は一千米以上の高原を形成してゐるところから概して冬期が長く夏は頗る短期間である

面積は約六十萬平方キロ、人口七百萬である。右の中蒙古人は三十萬乃至四十萬と推定されており甚だ少いが、政治的には往年の霸權を回復した形になつてゐる。そこに蒙疆統治の微妙性を多分に包藏してゐる譯だ、政治經濟の中心地たる張家口について簡單にのべやう。

こゝは人口約十萬察南自治政府の首府で蒙疆聯合委員會が設立さるゝに及んで蒙疆全域の首府を兼ねることになつた。今日では蒙古聯合自治政府の首府である、日本民留民は約八千といふことである、從來蒙支貿易の中心地であつたこゝは蒙疆政權の出現によつて更に內容を充實、今や蒙疆北支滿洲三國の貿易中樞地として飛躍的發展の過程を驀進しつゝある、特に羊毛、毛皮其他の蒙疆特產は、こゝを集散地として北京、天津市場を通じて日本の他海外に進出してゐる

主なる政治經濟的主要機關をあぐれば日本側としては、總領事館、特務機關、駐屯軍、日本居留民會、蒙疆羊毛同業會、鐘紡毛絨廠、大蒙公司等を數へ蒙疆側は先づ蒙疆聯合委員會、察南自治政府、蒙疆銀行、察南實業銀行、蒙疆電氣通信設備株式會社、蒙疆汽車公司、蒙疆運輸公司、蒙疆可聞、蒙疆通信總局等である。

尙蒙疆聯合委員會について一言すると、朔北七百萬民意を反映して察南に、或は晉北に將又蒙古一體に夫々自治政府を樹立した蒙疆三政權は、相互の關係を促進し相關する產業、金融、交通その他の重要事項に關し、緊密なる協議統制を加へることが三自治政權共通の目的たる防共、民族共和並に民生向上の對策上緊要なりとして昨年十一月廿二日張家口に三政權代表が參集して蒙疆聯合委員會を結成した。三政權の代表は察南于品卿、晉北夏恭、蒙古聯盟阜圖巴札布(德王)の三氏である。北支及び滿洲國が我國にとつて不可離の關係にあると全く同じく蒙疆は日本にとつて重大關係を有するのである、その政治資源、民族、宗教といつて、蒙疆の特殊性は軍事、政治この五點より見れば自ら了解されることと思ふが紙面に制限をうけている關係上その說明は後にゆずることゝしてこゝでは省略させていたゞく

今や蒙古は新らしく民族協和の上に立ち上つた。成吉思汗の後裔達は今や希望と誇りに滿ちて防共の護りに邁進してゐる。彼等の血は大事業に湧き立ち五體は感激にうちふるへ、新鋭の氣概は以て活目すべきものがある。

蒙古百年來の大洪水のため目的地たり厚和、包頭方面には不幸にして行くことの出來なかつたのはまことに遺憾とするところであつた。

高專聯合演習近づく
查閱注意事項通達さる
四師團演習に參加か

昨年度の本學教練査閲は昨年十二月一日に舉行され優秀なる成績を收めたが本年度における教練査閲も大體十二月の上旬に行はれる豫定である特に聖戰第三年を迎へて銃後の學生として大いに緊張を要する折柄、ますます奮勵努力日ごろ訓練の成果を十二分に發揮し、一層の優秀なる實果を殘さねばならぬ、大體において今迄の學校教練は形式的に流れてゐたきらひがあつたが、事變勃發以來、次第に實戰師團的となつて、特に今回の如く、學生の一部が大陸に渡り皇軍將兵の御苦勞の一端を感得するに至つたことはわれ〳〵學生の士氣、生活、なかんずく學校教練の上に好き刺戟をもたらすものとして今回の査閲の結果は大いに期待されてゐるが、師團當局から學校教練の査閲に際し特に留意すべき事項について左の通り通達があつた、卽ち

一、行軍＝上級學年に在りては戰鬪教練實施前學校所在地附近の狀況、學年相應の行軍力等を顧慮し若干の行軍を行はしめ體力、特に、行軍力、志氣振否の狀況を査閲す
一、射擊＝上級學年の一部に對しては狹窄射擊に依りて射擊綜合教育の程度を検す
一、突擊＝直突基本動作及突擊に關聯する刺突動作
一、體力訓練
一、學校的行事(閱兵分列等)

なほ教練査閲に先だつて高專聯合演習が舉行されるが、今年は特に第四師團秋期演習に學生部隊として參加するかも知れない模樣で、それが實現されたときはわれ〳〵銃後學生の心意氣を示す一大好機として學生諸君のハリキリが期待される

食堂値上
騰つた！
腰辨增加す
懷工合如何に
我等も戰時體制だ

東亞新秩序建設へと一路邁進する今日、全般に亘つて戰時體制はます〳〵強化され、これに關聯して物價は騰貴の路を辿つて行く！綠陰深き平和境、我が學園の學生の懷にその物價騰貴は如何に響くか？去る十二年第一陣に煙草、切手と次々に上り、生活の必需品も鰻上りに上り、制服もオーバーも靴ETC……人の氣も知らないで上る、上る、我々を尻目に上る、只下るのは小遣に國元からの送金、現狀維持は實質的に下つたのと同然の結果我々の樂しきカレッヂライフも全くの戰時體制を整へるに至つた併しもう一つ來るべきものは來た！心身鍛錬の休暇も濟みその名にふさはしく逞しい健康體で綠の千里山に歸つた途端先づ學天下の下に話題に上るは〃世界大戰勃發〃と〃食堂の値上げ〃だ此奇襲には關大健兒も些かたち〳〵の態だ、洋食のトップを行く金十八錢也のカレー、ハイライが金二十錢也へと墨痕鮮かに飛躍し、今までのカレー黨も迂濶に食へぬ、落ち行く先は何處ぞ、角帽組、白線組からも「有爲轉變は世の習ひとは云ひながら……」と幽かな悲鳴が洩れ始める、記者はこの悲劇食堂異變を見るべく〇〇〇食堂へ覗き込む、先づ目につくのは品物を非常に統制し確率の高いのに主力を注ぐ作戰らしい、白線組は勇敢にも金二〇錢也のカレーの試食をやつてるところを見るとまだ未練があるらしい、隅の方に常連の某君カレーに振られて金十五錢也の朝食へと悲愴な順落振り、昨日に變る今日の貪りな觀み難きは人の情ばかりでない四五度の顚落の姿が隨所に見られる、最低値金十五錢也のきつね丼も既に沒落の憂目にあひ、名コンビ、うどんとめしが其の新活路を見出してゐる、何處も同じ秋の夕暮だ、顏見知りの學生らうどんとめしをパクつきながら記者に慨嘆して曰く「我ら關大生省あたりで體位向上を叫んでも、食費が次々と騰つたんじや人情としては安いものを喰ふよ、食慾の秋、わしや痩る想ひがするよ」と體位向上論一くさり傍で犬も同感ですなど云つた顏で、淋しさうに坐つてゐる……飯にかはる代用品パンは俄然賣行良好となつてゐる、これは何を物語つてゐるだらうか、晝食時各教室を覗くと榮養價値滿點の辨當持參者が十名近く居りますます增加する傾向がある、中には日の丸辨當持參の興亞型學生もゐる、なほ學部學內食堂のみカレー等十八錢であつたが去る二十二日の委員會によりてこれを二錢値上げ、原料をよくしまた回數券も發行する害であると係記者の見たところによるとその値上げの影響は下宿の學生は勿論自宅通學生にも案外大きく、その打開策として喫茶店、シネマへ行くのを止めにし禁煙或は節煙等の好現象が見られこゝにも非常時色の自肅調の片鱗が窺はれる、とまれ、諸君よ！身體には統制がありませんぞ！大いに活用せられ度し

體力章
檢定實施
諸君の體力は何程？

今回國民體力增強の月的を以て體力章檢定が厚生省において制定せられ今年中に學生は勿論のこと全國青少年六百八十萬人が動員されることゝなつた、人的資源擴充を痛感される今日、自己の體力を知ることは全ゆる意味において必要なことであり、現今の非常時局下において東亞新秩序建設の擔任者たるべき我我次代の中堅層の總體的體力增進を目的として、この體力章檢定が制定せられたのである、これは每年行はれるものであつて將來の就職、結婚等に對して一つの規準となるべきもので、職て、年と共に村に街に興亞建設の青年の胸間に燦として輝くこの意義ある體力章の佩用せられる日が期待せられる、體力テストを施行する年齡は十六歲―二十五歲となつてゐるが、學部の學生で二十五歲以上の者でも希望者にはこれを行ふ由

一 體力章檢定標準

種目
A(走) 1…一〇〇米疾走 2…二〇〇〇米走
B(跳)…走幅跳
C(投)…手榴彈投
D(運搬)…重量運搬(五〇米)
E(懸)…懸垂屈臂

級別 種目	初級	中級	上級
A 1	一六秒	一五秒	一四秒
A 2	九分	八分	七分三〇秒
B	四米	四米五〇	四米八〇
C	三五米	四〇米	四五米
D	一五秒 四〇瓩	一五秒 五〇瓩	一五秒 六〇瓩
E	五回	九回	一二回

二、檢定實施注意事項

(1) 健康狀態に異常ありと思ふ者は學檢を見合せる
(2) 受檢者の服裝は輕裝とし履物は足袋又は運動靴とし「スパイク」は許さず
(3) 實施順序は凡ね四班に分ち一〇〇米疾走、走幅跳、手榴彈投、懸垂屈臂は各班に於て夫々實施せる後纏めて重量運搬、二〇〇〇米走を行ふ
(4) 跳力、投力は一人一試宛順次に行ひ之を二回實施後各人の最高記錄を以てその成績とする
(5) 檢査の實施に先だち體操と他輕い試技を爲す方がよい

三 檢査實施方法

走力に就いて

走者の出發は「位置について」「用意」の後旗の合圖にて行ふ

跳力に就いて

試技二回、踏切は踏切線において多少の前後は差支へなし

投力に就いて

試技二回、投擲線後方から立投姿勢にて行ふ(助走を用ふるも差支へなし)但し投擲線踏出しは一回の無效試技とす

運搬力に就て

重量物は受檢者の任意で運搬方法も自由である途中に於て再落した時はその場所に於て再び之を持ち或は擔いで繼行する、出發方法は「位置について」にて出發線の後方に位置し「用意」の後旗の合圖により重量物を持ち或は擔ぎて出發す、但し「用意」の際重量物に手を掛ける事は差支へないが動かしてはならぬ

懸垂力に就て

用具の眞下から順手(手の甲を手前に向ける振り方)に跳付き臂を伸し一旦靜止せる懸垂姿勢となりてより屈臂を開始す、屈臂の程度は臂を曲げた時頭の位置を正しく保ち顎が用具の上線に出るを標準とす屈臂の次に臂を伸す際は充分に伸すべし、臂が充分伸ぬ中に次の動作に移る時は反則とす、又屈臂の際體の振動蹴り等の動作により屈臂助ける事を得ず

吾ら汗の奉仕に
忠魂碑完成近し
殘る工事 學生の手で

われ〳〵若人の汗の奉仕を以て着々進行中であつた忠魂碑の建設工事は殆ど完成の域に達し、暑中休暇中には美しい花崗岩の碑石が大グランドの南端に、豫科校舍を見御し毅然として建てられた、殘る最後の工事は碑周圍を芝生で圍み四隅に檜を植つけて綠化するとだけであるがその完成の曉にはその偉觀は我が千里山學園に更に一段と光彩を加へるであらう

なほ最後の工事については一般學生の勤勞奉仕に待つか、或は他に請負はせてやらすかは今のところまだ決定してゐないが、教授會の意向としては吾々學生の勤勞奉仕によつて行ひたいとのことである

除幕式の日取りについては大學祭と同時に舉行するといふ案もあつたが、大學祭の事業に差支へるので、別の日に專門部合同で感謝と哀悼の意をこめて嚴肅盛大に舉行されることになり日取は近く決定を見ることゝなつた

本學から五名の合格者
陸軍經理試驗

先般陸軍省で執行された陸軍經理部士官試驗の第四師團官轄內における合格者八名のうち本學からはその過半數たる五名の合格者を出だし、わが學園のために萬丈の氣焰を吐いた、その合格者のうち一名は本學々部在學生で他の四名は卒業生で眞に本學々生として賴母しく、又名譽である、また合格者のうち本學々生ならびに出身者によつてその大部分を占められたといふことは如何に本學に學んだ者が身體強健、思想堅實、學力優秀であるかといふことを證明してゐるものと云ふべきであらう

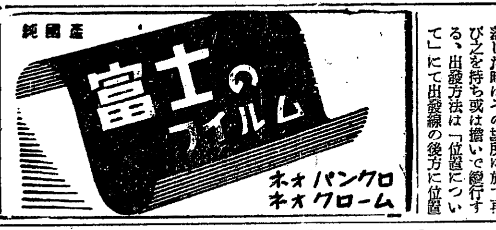
スクラップ

野球 往年の意氣なく立命大に、2―0・3A―1で破れた、敗因は一つに選手の若さであり又ベンチの用兵策戰が拙い爲である

執筆者紹介

○二 面○
河村信一……本學教授・數學擔當
內藤耕次郎……本學講師・心理學擔當
○四 面○
堀正人……本學教授・英文學擔當
本庄實……本學講師・獨語擔當
江里口春志……醫博本學先輩昭九大法卒
入江來布……俳鳥派俳人

勤勞奉仕が大陸まで延長せられ、青年學徒の勤勞は軈て國家の消長をトすることゝなつた觀が深刻される◆選ばれた倚俊、昇げて三十士、學部、豫科、專門部を代表して、關西大學の名聲を戰鬪帽に燦たらしめたのであつたが◆所聞、鐵を熔かす大陸の灼熱と鬪ふて病魔の魅するところとなり、終に土と化した學生も在つた◆嗚るに、曷ぞ夫れ壯なる哉、わが關大健兒！◆街も疾患の餌となる者なきは素より「どウせ、おたがひ、かうして遙々と大陸まで勤勞報國隊員となつて乘出して來て、共に苦勞をして居るのだ……どうぞ、歸へりにも皆揃つて、一人も缺けないやうにしようじやないか」としみじみ……◆熱情銘肝し、誠意凝結す◆人おのづからなる自省、自肅は寔に以て範とすべき處生の箴言とならねばならぬ◆更に、得丸正雄君の敢動が本部隊長よりの感狀となつたことは、數千の隊員を前にして啻り、君のみの榮譽に止まらず、關大として特記さるべき俊榮である◆關大スポーツ、秋につれて凋落の桐一葉◆何が、夫れをそうさせたか！◆誰か謂ふ〃學問の方ができるやうになると、スポーツの方はあきまへんな〃と◆今方に、大學は「學術研究」の殿堂にして「心身修養」の道場たるべきことを强要せらるゝ時◆スポーツの憔悴は、道場の荒頽を意味する◆況んや、スポーツ精神を適逆鼓吹することは卽ち心身修養の樞機なるに於てをや◆夫れ考ふべし、考へざるべからず◆



純國產
富士のフイルム
ネオパンクロ
ネオクローム

新刊
日本公企業成立史
大阪商大助教授 竹中龍雄著
我が市制の實際の運用の跡を公企業を通じて檢討すると同時に、上下水道、瓦斯、電氣、軌道、港灣、運河、屎尿處理事業に就いて史的實證的研究をなせる力作である、著者はこれによつて我が一般市政、大阪市政並に公企業發達史の研究に新天地を開拓してゐる。
菊判上製二七〇頁 武圓武拾錢 送料拾四錢

新刊
經濟思想と學說
◇經濟特殊研究叢書第六編
長崎高商教授 伊藤久秋著
本書は經濟思想發展の足どりを辿らうとする意圖の下に書かれた著者の論文集である。新しき經濟學は過去の良きもの〻上にのみ築かれる。經濟學の改訂を要求される今日、新しき經濟學の礎石を經濟思想史の再檢討に探求する事は現下の急務であると考へる。
菊判上製三〇〇頁 武圓七拾錢 送料拾四錢

經濟特殊研究叢書
◇第一編 矢內原忠雄著 帝國主義下の印度 二・五〇
◇第二編 正井敬次著 金融論研究 二・五〇
◇第三編 堀江保藏著 日本資本主義の成立 二・五〇
◇第四編 南亮三郎著 人口理論と國際貿易 三・五〇
◇第五編 堀經夫著 地代論史 二・五〇
商業特殊研究叢書第一編 關本健太郎著 海上保險特殊問題 二・五〇

好評
日本紡績業と原棉問題研究
大阪商大助教授 名和統一著
我が國紡績業に就いての研究、論述は少なからぬが、その原料たる棉花との聯關における具體的で、而も全面的な研究はこれ迄殆どなかつた。しかし今日の情勢は斯かる研究を切に要求するに至つた。こゝに本書は適切な所論、精緻な分析を以て此の要求に應じてゐる
菊判上製六〇〇頁 參圓八拾錢 送料廿武錢

新刊
新會社法論
辯護士 西本寬一著
戰爭は兵書にない戰法を生む。それは現實外國の場面に直面してゐる爲である。實際家の書物には何かそこに云ひ知れぬ迫力がある。それは現實の問題にぶつかつて書かれたものであるが爲である。著者は十數年來實戰法界の辯護士として、あらゆる實戰に臨んだ自己の經驗を光輝として本書を成された。そこには必ずや現實に卽した實證的の深い學理がなくてはならない。而も本文九ポイントベタ組七八〇頁、その鮮に於ても正に既刊類書の冠である。敢へて推奬する。
菊判上製八〇〇餘頁 六圓五拾錢 送料卅武錢

新刊
工業組合法
◇改正工業組合法八月一日より實施せらる
―本書は改正法を含む最新の體系的解說書である―
大阪商工會議所 法學士 清水兼男著
戰時經濟統制下における統制經濟の遂行に當り工業組合の使命はます〳〵重きを加へる。中小工業の生產力擴充、時局產業轉換への積極的活動、物資統制における國家的機關としての活動には目覺しきものがある。これに伴つて工業組合の數も三千五百を超え、その生產額九十億に垂んとする勢である。しかも今や事變は長期建設への段階に入つて統制經濟のいよ〳〵强化せられるに及び、工業組合の重要性が益々一層增加へられることは疑ない。かくの如き工業組合の使命の重大性に伴ひ、今年工業組合法の改正が行はれ、その統制的機能の强化と新に工業小組合の制度が設けられるにいたつた。今や右改正法が八月一日より實施せらるるに當り、最新の工業組合法全般に涉る詳細な解說書を刊行して世に送る。組合關係者は勿論、苟も現時の戰時統制經濟に關心をもたれる人士の必讀を慫める次第である。
菊判上製三六〇頁 定價 貳圓五拾錢 送料拾四錢

好評
貿易組合法
◇理論と實際との兩面よりする周到なる研究書
法學博士 末川博序
大阪商工會議所調查課 法學士 清水兼男著
統制經濟の强化に伴ひ强力なる統制機能を有する組合の使命はます〳〵重大である。それは組合が單に組合員の利益を目的とするものではなくして組合なる共助的自治的組織を通じて國家の政策に協力する機關であるが故である。而して斯かる統制機能を有する新興の組合中に在つて極めて整備せられた法的組織を持つものが貿易組合である。貿易組合法は從來の輸出組合法に代つて新に輸入組合の制度を設け我が外國貿易を輸出輸入の兩面より統制すべき意圖を以て昭和十二年八月、全面的に制定せられたものである。從つてそれは經濟統制下に於ける組合組織を典型的な姿に於て且つ最も整備せられた法的組織に於て有するものである。然るに未だ我が國に於ける貿易組合法の良き著述もなく、又組合法の研究も餘り行はれて居らない現狀に於て最も信賴し得る詳細な內容を有する本書の刊行は有意義と信ずる。貿易並に組合關係者及統制經濟研究家は敢へて御一讀を望む。
菊判上製二九〇頁 定價 貳圓五拾錢 送料拾四錢

大阪北區梅田新道
電話北 一六五三番
振替大阪 三一九七二番
東京駿河台中央大學前
振替東京 八一二三八番
大同書院

万鍬日記抄

河村信一

文部省が主催となつて興亞靑年勤勞報國隊と云ふものを作り、全國の靑年學生生徒合せて約一萬が大陸へ押し渡り汗と脂を絞つて土と親しみ、由て以て大陸の認識を高めるといふ企てが今年の夏行はれた。行く處は滿洲北支の各地、軍隊式の編制で各小隊が各地に分遣された。僕亦豫科の諸君と共にそれに參加し遙々渡滿して一文を得た。名付けて滿洲日記、イヤサ萬鍬日記と云ふ。玆に其內の數節を記して旅行中の喜憂を同行しなかつた諸君に分けようと思ふ。

先づ內原に入所す

七月六日　今日は內原入所の日だ、內原とは茨城縣水戶市の西二里程にある滿蒙開拓靑少年義勇軍內原訓練所のことで滿蒙方面へ進出の集團移民や靑少年義勇軍は此處で訓練されてからでないと大陸へ行けぬこととなつて居る。我々もこれから大陸へ渡つて開拓の御手傳ひをするので、一先づ所謂內原の空氣を吸ひ、所長加藤完治氏の話を聞き、大陸生活の樣式を學びこれに馴れなくてはならぬのである。雜誌の寫眞版で見たり、新聞の記事を讀んだこともあつて內原生活の大體は想像してゐたが今迄は我々と全く違つた世界の人々のために作られたところと斗り思つてゐたのに、一月ばかりの間にバタ／＼とその社會へ這入ることに成つたと思ふと世の中と云ふものは、甚だ面白いものだナドと考へながら、內原驛を下車して重いリユツサツクを肩にして一路訓練所を指して急いだ。

學生　に先んじて一週間も前から入所することになつてゐる先生達が、同じ車を下りて同じ方面に進んで行く。皆軍人そうなリユクサツクを背負ひ戰鬪帽を冠つていかめしいが、汗だくでトボ／＼と急ぐ風を見ると些か悲慘の感がする。しかし何れも一騎當千の强者であるので步き乍らの話は中々に勇壯で活潑だ。若者に負けるものかと云ふ覺悟がその眉宇の間に露はれて貴重なる汗と成り、その雫の落つるところは一躍沃野と化するかと思はれる程である。

訓練所は停車場から十分と云ふことであつたが停車場町を拔け森の內の道へ來たが、あたりに夫れらしいものは、さつぱり見ゑ無い。リユツクの紐は肩に食ひ込んで來た、汗は流れて眼にしみ込み頰をぬらして拭いても／＼拭き切れない。誰が先きと云ふことなく木陰へ這入つて休憩する、夏であるから步くと汗が出るのは自然の理で別段不思議は無いが、重いリユツクの故か今日は殊に甚しい。滿洲の大野をこうして行くとすると、中々つらいぞ、口ではゑらそうに云つても、四十歲前後の先生達の顏にはチト苦悶の色が漲める。さればと云つて今更歸るわけにも行かぬ、エイ進め／＼と又步き出す。やつと內原名物日輪兵舍が幾つも／＼もある一劃が見ゑて來た　あれが、向ふ一週間の我々修練の道場だ、暫く移民候補者となつた積りで暮すとしよう

七月七日　漢文の先生の隣りには敎練の先生が居る。英語の先生は修身の先生と向ひ合に成つてる。上海戰に參加して武勳を建てたと云ふ勇士も、多年研究に沒頭して學位を得たと云ふ學者も、日輪兵舍の中で作業服のまゝに食卓の周りに並んでは、一かどの滿洲開拓移民である

日輪　兵舍と云ふのは橿原神宮の勤勞奉仕の時に見たあの圓い家と思へばよい。あの圓い家—八紘舍と云つてゐたが—あれは內原に學んだのであらう。中央の空地に長方形の木卓を家の形に順つて中空圓形に並べたのが食卓である。議會における議員席の一列を連想すればいゝ。その上に各自の四つ入れこの食器—琺瑯製で飯、汁、菜、茶の大小四ケの圓形の鉢—を出して、そこへ當番が夫々の食料を取り分けるのである。全部—我々の室には三十餘名居た—によそつてしまふと舍長—一舍に一人は舍長が選出されて種々の舍の用事をし整頓の責を負ふ—が「みたましづめ」と號令をかける。一同はお膳に手を置いて暫らく沈思默考する。「なをれ」「いただきます」で一同も「いただきます」と云つて箸を取る。甘そうに見たお飯もお菜も口へ持つて來ると、麥飯や鰹節で都會人には不向である。さればと云つて食はぬ譯には行かぬから觀念して食べる。食ふ程に味ふ程に移民達は矢張健啖家である。殘飯も殘肴も留めずにすつかり平らげ、たまたま殘してゐる人があるとその分まで頂戴して食べてしまふ中々心强い。これでこそ大陸進出の指導敎官である

加藤完治氏の講演

七月八日　今日も昨日に續いた加藤完治氏の話がある。加藤氏は僕と同じく東京一中の出身である。その點から先づ以て何となく親しみを覺ゑたのであるが、短身ながら顎一ぱいの美髯をしごき—やがれい聲で熱辯を吐泉の如く滾々として續け一時間でも二時間でも平然たる態度は、それだけでも豪傑と云はざるを得ない。

日本　農民の現狀から說いて、その窮狀を打破すべき唯一の方法は滿洲に移民することであると云ふことを、自己の體驗と不變の信念を織りまぜて物語つた。これを聞く農村靑年は必ずや一齊に勇奮して內原へ走つて訓練を受けに來、未來の大陸開拓者を志すに至るであらうと思はれる。しかしダ、我々は農民では無い學校の先生である學生生徒である。農民とは少し考へが違ふし違つてもよいのである。加藤氏の云ふことは間違ひ無いところであるが、我々が今度夏休みの短い期間滿洲へ行つて農民の御手傳をすることに關して、既に行つてる地方靑年に向つて云ふのと同じことを繰返すのでは加藤氏もチト法を說くに人を見ないと云はれても仕方があるまい。我々特殊社會の人々に對しての加藤氏の所說が聞きたいものである（現地では多くの隊—殆ど全部—は農業の御手傳はせず軍の御用とか、土木の仕事をしたのであるから一層加藤氏の話は向岸火災的でピンとこなかつたのは甚だ遺憾である）

〃日本體操〃の由來

七月十四日　今日も早く目がさめた。消燈が九時で直ちに寢るので—殊に僕は寢付が善い、それで達者だと云ふ譯でもあるまいが—どうしても早く目が覺める。大浴室の薄暗がりの中で口を嗽ぎ顏を洗ひ、裸體になつて大水溜—直徑二間餘、コンクリート製圓形の—の水をあびる、南洋のマンデー（爪哇スマトラ等では湯に入ることは稀で、その代り一日に何度でも水をあびる、それをマンデーと云ふ）を思ひ出す。冷水摩擦は數十年來夏冬を問はず每日やつてるが、內原入所以來好境に惠まれたと、いゝ氣になつて每朝水をあびてる。內原人はこれをみそぎと云つてる。五時の起床太鼓—太鼓の音で起き、飯を食ひ、集合し、寢る—の音が伐採漏れの森にこだまして、昨日入所した學生々徒達の夢を破る。あちこちから睡眠不足の顏が現れる。入所第一夜の感想を聞く間も無く皆々洗面や用便—この言は內原では中々意味深である、詳しいとは樂屋落になるから省略する—をする。幹部—訓練所生徒に對する先生株を內原では幹部と云ふ—が來て集まれと號令する。昨日迄は我々だけで朝のつとめをやつてゐたので少々まづいところがあつても、かまはなかつたが今日からは學生が見てるから、あまりへまもやれまいと一同堅くなる「氣を付け」「番號」が濟んで

內原　名物—又しても名物が出るが—日本體操（やまとばたらき）が始まる。日本體操と云ふのは筧克彥博士の日本古典に基く皇國精神を振ひ起す動作であつて、即ち心身を淸む（禊祓）の動作である筧博士が嘗て訓練所訪問の時加藤氏がその所說を聞き大に共鳴し遂に博士の「やまとばたらき」を當所の重要なる一日課としたのである。呼唱や號令の特異性も筧博士の眞劍なる講義—僕は科は違ふが同敎授の敎室へ入つて聽講したことがある—を想起すると一寸乙な氣がする。ラヂオ體操をやるよりも或は有意義かも知れまい。一通り濟んで幹部が神勅を單唱し天降りの一齣を複唱し最後に「すめらみこと、いやさか、いやさかー、いやーさーかー」をやり二拍手一拜おじぎをして終りとなる。これを滿洲の廣野の眞中でやつたらさぞ氣持ちのよいことであらう。大陸の花嫁と一緒に野良着、もんぺのまゝで、これをやる農民はこれによつて祖國の有難さを强調し、興亞の聖業に追進する氣になるであらう。何かは知らず我々も既に滿洲の空氣の中にある樣な氣分になる

大運動場で學生達の敎練が始まつてる。今日から我々は見學の譯であつたが矢張一緒にやることゝなつたので、大いに若返つてオイチニ、オイチニと足並を揃へて步く

建設への第一步！

七月二十三日　午前六時ごろ船は岸壁に着いた、處は羅津、正に大陸の一角である。背には例の重いリユツクサツクを載せてるが、足は輕々とタラツプを下りる、小學生が大勢旗を振り軍歌を歌へば、國防婦人會の一隊も黃色い聲で萬歲を云ふ。すつかり出征軍人の樣な氣になつてスフ入○圓の團服も軍服を着た積りになり肩を怒らして行進する。導かれたところは○○の廣庭で我々の歡迎會場である。ト見ると大きな長旗が立つてそれに大きな字で**滿洲**建設勤勞奉仕隊—歡迎とある。我々の隊名とは違ふが、腕を間違ふたのではあるまいかと思つたが、その儘で行事を進行し、實踐本部の誰とか道知事の誰とかの壯行の辭がある　その言の中でも學生とか報國とかの言よりも靑年とか奉仕の方が强く聞こゑる。何だか勝手が少々違ふ樣な氣がする。我々は玆で改名されて同時に學生隊で無くなつたらしい。しかしこゝまで來たらどうでも成れと云ふ氣になる。

七月二十七日　昨日からいよ／＼作業を始める。宿舍は隊から數町離れてる。食事は三度共、兩國の賄が作つて呉れるので隊內の食堂で食ふことゝなつたので、朝禮の後一同は列を組んで朝露の草の間の道を內原以來肌身を離さぬ—も大層だが—四組の食器をこれも前から付けて渡された布の袋に入れそれをぶら下げて行進する。我々の作業してる○○部隊の入口に近づくと兩側にアンペラで圍つたキヤンプとでも云ひたい樣な小屋が幾つもある、その橫にはあまり綺麗で無い滿人が或は大井鉢を手に持つて、吹き／＼お粥の樣なものを啜つたり、或は草の中にしやがんでのんきな顏をして

天地　の悠久を樂しんでゐる。甲は朝食で乙は用便である。この連中の一部は既に隊の門前に集合して下士官や軍醫の身體檢査を受けて居る。彼等は苦力であるが、高等の部で又身元の確なものである。しかし苦力は苦力である。我々はその一齣の橫を通つて門を這入る。引率の小隊長は大尉なので衞兵は「氣を付け」をやり敬禮をしてくれる。大尉に向つてするのであるが我々にしてくれると思つて此方も「頭左」をする。一寸氣分がいゝ。苦力は我々を見て何と思つてるであらうか、兵隊では無し、役人でも無さそうだし、さればとて苦力仲間とも思へず、一體何者であらうと首を傾けて居るのもある樣に見へるが、大部分は「我不關焉」と苦力煙草の煙りを行方を眺めてる（後の話であるが一人の苦力が遂に滿語の出來る學生の一人に聞いた「あなた方は日給いくらだ」と、學生は「たゞだ」と云つたら「そんな事はあるものか」と不思議な顏をしてゐた、彼等は我々を全く苦力と認めてる事が之で判然としたと、あとで一同大笑ひをした）

〃友あり便り來る〃

八月十五日　內原の兵舍で一緒であつたが、其後分れて○○方面へ行つた某大學の某敎授から葉書がきた

〃貴君はじめ皆さん其後いかがですか、我々は何しろ草深い假地に居るのでニユースはさつぱり入りません、我々第一小隊の者は皆あれ以來ずつと元氣で通してをります……昨八日は豫定の第一期の仕事を完了した紀念すべき日でした。○○の町の入口の小さい丘を越して長さ千米突の道路（興亞道路、勤勞峠、報國橋と一同が命名）をつくつたのです。廿七日に工を起し、うち一日を

軍隊　慰問、半日を洗濯に費したのを差引いて正味十一日半で完成した譯です。宿舍はこの町から數里南へいつた茫々たる草原の中にあり現場へはトラツクで往復したものです凸凹道をゆられてゆくのも樂ではありませんが、殊に生徒らは七時出發六時歸舍、歸ると水汲み炊事不寢番などをやるのですから、その努力苦心疲勞は非常なものです、たゞ宿舍が兵營とはちがつて自由で惠まれた自然に懷に抱かれてゐるのと、中隊長が、天性の朗かさを發揮されるのとで一同ほんとうに和氣藹々とやつてゐます。十五夜十六夜には「大和油」を頂戴し、一同は心ゆくまで盆踊を踊りぬきました……皆樣によろしく、そちらの御樣子をおしらせ下さい。

大陸へ行くと內原の不平も何も飛んでしまつて一同は朗かに作業をする。勇將の下には弱卒なし。熱心な敎官の下には怠ける生徒は居ない。生水嚴禁の札の橫には絶ゑず湯茶を用意し、粗食を補ふためには酒保への買出しに世話をやく。かくて先生は生徒のために嚴父と慈母の兩役をつとめて來た。

八月廿二日　昨夜牡丹江を出發した汽車は今朝八時半に遂に哈爾賓に着いた驛前で簡單な歡迎會があつてから省公署の裏庭へ出て玆で朝食の辨當をもらふ。茶の配給がわるいので困つたが、ひじきや鰹節の御馳走で腹を作る。校友岩本正君の案內を得て先づ大陸科學院哈爾賓分院博物館へ行く。露國東方進出政策の一遺物としての本館は數年前來た時とは正面敷瓦を改めた外、大した進步も無い樣に思はれた。天然物や出土品は殊に僕の目を樂しませたが殘念なことにはラベルにソビエツト語だけのものが少くないので不便を感じた。滿洲國における大切な本館に日滿語が認められないナンて馬鹿げた話であると云はざるを得ない。中央寺院、秋林洋行ヤタイスカヤ、松花江、トキワ及丸商百貨店……大急行での飛び廻りに思ひの外に汗をかいたので、某喫茶店へ入る、露美人が居る。兩隣の家は日本人の店と滿人の店である。こゝらが民族協和と云ふのであらうが家が並んでるだけが協和ではあるまい、氣心が知れ合つてつき合ふのが本當の民族協和であらう。電車に乘り合せた樣なのは雜居と云ふだけでは無からうかほんの短い時間では觀察も何も出來ないがどんなものであらうと獨り考へながら停車場へ急いだ。

豫科生の心理學的實踐

【上】

内藤耕次郎

事件、例へば石崖から泥濘へ轉げ落ちたといつた樣な、何かすばらしい一つの事件を以て人生の記憶は始まる。意識の礎石をそこに据ゑて建築を始めるのである。今僕等が二十年ぶりで何々課長といつた樣な舊友にフト出遭つた折、中學時代の想ひ出話も一切り濟まし、

「所で君の高校時代には誰にどんな心理學を習つたか？」と問ふてみると、「なんでも蒼白い顏をした敎師がクシヤ／＼した圖など書いて、わけのわからんことを獨りで喋つてゐた樣だが今は何も頭に殘つて居らんね」十中八九は先づかうである。事件無き所に記憶無き所以である。勿論心理學は二十年の間に隨分進步をした。しかしどの學問だつてフルスピードで走つてゐる況んやそれ等總てを搖り動かし纏上げ跳飛ばしつゝ世界の歷史が廻轉してゐる秋においては、本讀みや、ノート作りに終始する心理の授業などは二十年はおろか、數年も經たぬ中に卒業生の頭からかげの如く消ゑ失せるのは餘りにも明白である。しかしこれは心理學の罪ではない。方法の罪である。一體卅世紀に心理學が哲學から獨立じて堂々たる近代科學の列に入つたのは實證的乃至は

▼▼**實驗的**▲▲　方法を採用した結果である。いはゞ機械化部隊を新に組織して、獨斷的な思想家や主觀的な小說家の幅を利かしてゐた迷信的常識の大陸を、縱橫に攻略しつゝ颯爽たる新だ地を開拓した樣なものである。だから專問の心理學者はこの近代的な裝備や組織を決して忽せにはしない

ところが實驗室が無い上に合併授業をやり勝ちな高校や大學豫科においては、とかくこの實證的方法が徹底せず、折角の心理學も骨拔きになつて有耶無耶の太平を繰り返すに至るのである。僕もこゝの豫科で心理學を講ずること二年にして既にこの弊を痛感するに至つたが、名案が無いので困つてゐたところ一昨年の六月遂に一案を得て斷行したのが心理學の街頭進出である、或ひは實生活への突入と云つた方が包括的であるかも知れない。試驗も一週間に迫つたある日の事、突然授業中の第一豫科二年及び第二豫科一年の諸君に向つて「就學前期に於ける子供の心理學的觀察と說明」といふ宿題を出した。期限は僅か一週間。諸君はたゞならぬ心情の混亂と共にその日の印象を今尙は新しく想起し得るであらう。出題の唐突さにかける亂暴は別として、勿論かうした試みの必要な事は、文部省制定の高等學校心理科敎授要目の中にも記されてはある。曰く「隨時實驗を課すると共に、實生活も亦觀察場、實驗場なる所以に留意して實驗精神の確立觀察眼の養成に力むべし」と。然し之を實踐してゐる學校が果してどれ丈けあるだらうか。廣い日本中には無いとは云はれまい。ただ僕は寡聞のせゐか未だ耳にしないのである。

ところでこの試みに際しては時日の都合で殆ど豫備訓練らしきものさへ與へず、具體的方法も生徒諸君の創意に一任した。敎科書で極く簡單な兒童心理の概念を得た丈けの諸君に對する出題としては實際無暴に近いものであつた。しかもどうだ。諸君は淸泉に跳び込む群像の如く、家庭に、街頭に、幼稚園に車內に、さてはゆるやかに波打ち寄する美はしの濱邊に

▼▼**少國民**▲▲　の息吹を探ねつゝその世界に潛り入つて備さに彼等の動靜を記錄して來たのであつた。僅か一週間の期限であつたにも拘らず、收穫は豫想外に多かつた。今その文字通りの結晶を測定してみる。百八十二名のものした全報告を打つて一丸とした所、20×30×17糎の立體となり、重さにして三九九〇瓦、新生兒の平均體重を凌駕すること正に一千瓦に垂んたるものがある。これを定量分析すれば如何。觀察された幼兒の中、性別年齡明記のもの計百二十兒、內男六五女五五。確實なる年齡を明記せざるもの九九其他數人より成る幼兒集團八數十人集團六組で總計すれば大凡そ五百兒を下らないであらう。中では、家庭二一件、屋外一三件、幼稚園五件、電車內四件、醫院、錢湯各一件宛がある。取扱はれてゐる內容によつて分ければ、幼兒心理の一般的觀察或ひは小論說七九篇、行動一般を主とするもの一四篇、遊戲に關するもの九篇、言語八篇、描畫に關するもの二七篇、幼兒の社會四篇幼兒の動物にする態度四篇雜一九篇、といふ如く變化に富んで居るが、たゞ敎科書の數行に過ぎぬもの一五、敎科書の丸寫し三があつたのは遺憾である　なほ描畫篇の附錄として或ひは獨立に蒐集されたところの黑鉛筆、クレヨン、色鉛筆等による兒童畫の數は夥だしくこれに若干の貼紙細工を加算すれば優に一千に近いものがある集團の力こそはげに賴もしいものではないか。

次にこの集團ルポルダージユの價値は如何。諸君は心理學を學ぶこと日尙は淺かつた上に、方法亦準備と組織を缺いた故に、之等の結果に科學的嚴密や體系を求めるのは無理である。而も諸君の熱心には淚ぐましきものがあり又筆は描くともたゞ眞實を求めて逍遙へる者のみに與へられる幼兒の姿、紙面の上に跳び上つて來る幼兒の聲や姿には、讀み行く僕も思はず微笑み、又獨り卓を叩いて感激した事幾度だつた事か。まことに諸君は裝備も無く組織も無き原始部隊を以てよく孤軍奮鬪體當り戰術を敢行したと云つていゝのである。今かゝる勇士の中

▼▼**殊勳甲**▲▲　に値ひする者に就て、紙面の都合上只名前と業績の性質のみを左に列擧することとする。先づ多數の兒童畫を蒐集した者に、外谷貞義、金森健二、南勉、赤澤淸、黑川善衞、上田一男等があり、就中、外谷、金森の如きは約八十枚にも及んでゐる。又畫數は少いが說明に詳しき者に金瑚守、安間貿、岡村民雄、河村勝久、若林美雄等がある。就中金瑚守の如きは桐原氏の標準に據つて一一の繪に智能的採點をも行つてゐる

これ等とは異り多數の兒童語を蒐集したものが若干あつたが、就中齋藤武の如きは、公園、動物園、停車場、電車內、海邊等樣々な場面を廻り步いて百にも近き兒童語を記錄して來てゐるその中數個を擧ぐれば、チヤンゴー（ラヂオ）ブーブ（豚）キヤツキヤツ（猿）チクノ（針）ペンペン（三味線）、ニシメ（娘）の如し。兒童語には字引が無いからうつかりすると英語やドイツ語より難かしい。又「ニツポンコタチユー、オコオコピ、コンナメデカイコトハナイ、サンバイ／＼」は大人語に翻譯すると「日本國中大喜び、こんな目出度い事は無い。萬歲々々」となるのだそうだ。其の他、自ら參考書の調べ、描畫表現、抽象作用、形態把握の三作用に就て

▼▼**科學的**▲▲　な小實驗を試みた松本源逸、自己の創意により、音樂その他に就て簡單な實驗を行つた大西忠三郎、同じく犬、金魚、貯金箱、サイダーとコツプ等を用ひて行つた植野郁太、仔猫と幼兒との關係を實驗した荒川眞彥の諸君の研究は心理學的實驗としては甚だ不完全なものではあるが、その中に寳石の如き叡知の閃めきを見得るのは嬉しい。更に方向が變つたので松尾敬一郎はピアジエの臨床法に倣ひ、幼兒に種々の質問を發してその思想を探り出してゐる。

又兒童の諸性質の觀察とその分析的說明に特長あるものに片岡篤義、島崎憲一、松本義三、長谷川潔、磐長谷季等があり、幼兒の行動が場面によつて如何に特殊化するかを觀たものに北川行雄と片岡博雄とがある。前者のは某醫院にかけるもの、後者のは錢湯にかけるものである。又毛色の變つたユニークなものとして磯田卓也の小說にかける研究がある。即ち彼は志賀直哉氏の「流行感冒」中に出て來る左枝子たる女兒の性質をテキストクリチイーク的な方法を用ひて巧に剔み出してゐる。

最後に、幼稚園へ自ら出かけて觀察したのは良知武男、淸水力三、園田日出彥、黑田道雄、山內修二、松井守の諸君であつた。この中淸水以外は皆千里山幼稚園の樣であるが、特に園田は說明に詳しく、松本の描寫は興味が深い。園田によれば、同勢三人例の如く腰に手拭を下げ高齒の下駄を穿き、敎室の床板をガタゴト踏み鳴らして授業中の幼兒を觀察して來たことをさも自慢さうに記してゐるが、これなどは了見違ひといふものだ。とんだ所まで元氣を持ち廻られると出題者の僕も責任を感ぜざるを得ない。保姆先生も內心は苦々しく思はれたかも知れない。それでも先生は惡い顏もせず、子供達に「あなた方は斯うして每日々々お利巧におとなしく遊んでゐらつしやるでせう。だからね、からして昨日も來られた樣に今日もお兄さん方があなた方をお賞めに來られたのよ。だからね、もう一層よく勉强致しませうね」と言つて聽かせ、繪等描かせて歸りのお土產に下さつたといふことだ。先生の機智に富んだお心遣ひや御親切には厚く感謝すべきである

この如く幼稚園へ出かけた諸君はしあはせであつたが、直接街頭へ進出し、特に描畫を賴んだ諸君には相當

▼▼**苦心の**▲▲　跡が見ゑる。子供が數人遊んでゐるのを見つけて、ノソ／＼觀察に出かけた所、人相の惡さ（？）の故にか、氣味惡がつて一散に逃げられてしまつたのや、近所の子供にキヤラメルを與へて繪を畫いて貰はうとしたところ、キヤラメル丈けを取られて失敗したのや、數人を下宿に招き、買つて來たパンを饗應して、何か種を採らうとしたところ「こんなパンまづいや」と惡口を言はれたのみで結局喰ひ逃げされたのもある。しかし又、永野壹永の如く、海邊に釣する見識らぬ中學生が連れてゐた幼女に描畫を賴むため、先づその中學生によく譯を話し、幼兒に描かせて貰つた場合や、同君の報告にもある如く「近所の子ですが、どう賴んでも恥しがつて描いてくれませんので、その家へ行つて譯を話しますとよく理解して下さつて「描かせておきますから後刻もう一度いらつしやつて下さい」とのことで後程受取りに行きますと滿一年六箇月になる赤ちやんの描いたものも一緒に下さいました」といつた風に熱心の結果成功してゐるのもある

更に金瑚守の如く街頭におけるる描畫依賴に際しての幼兒の反應態度により、該兒の性格や躾けや環境をも洞察し、簡單ながら獨自の方法論を案出してゐるのなどは最も賴もしい。卽ち左の如し。依賴方法先づ街頭で遊んでゐる子供に「あんたおいくつ？」と訊ね次に「學校に行つてる？」と訊ね「學校に行つてないよ」と返事したら、試驗紙半切全紙と4Bの鉛筆を與へて賴むのである。もし應諾したならば「男の人の畫をあなたの思ふ通りお描きなさい」と畫題を與へ、取圍む見物人に發言を禁止する、次に

▼▼**附隨的**▲▲　發見として金は依賴兒童總數九十人を、反應の仕方の相違によつて分類し、各グループ每に幼兒の性格や環境等に對するや〻詳細な觀察を附け加へてゐるが、紙面の都合で只分類のみを左に揭げる。

一、賴んでも嫌ひと云つて畫かぬ者　男女廿八人

二、一錢あげるから畫いて呉れといつても畫いてくれぬ者　男女十一人

三、お母さんが畫けと言つたら畫くと言つて母の許可を乞ひし者　一人（男）

同じく「おぢちやん」の許可を乞ひし者　一人（男）

四、「一錢呉れた、畫いたらう」と言ひし者　男二人

五、「一錢なんか貰はんでも畫いたるが」と言ひし者　男二人

六、自發的に「畫いたろ」と言ひし者　男二人

七、恥づかしがつたり、私の顏を見ただけで「あーん」と泣いて「嫌とも何とも言はずに顏を隱して逃げし者　女二人男一人

因に金がメトーデの中に「一錢」を持ち出したのは、一應異彩を放つてゐるが、これも處が大阪都島南通の中流以下の俸給生活者の住宅街だつたためであらうから、土地柄によつては不適當なことがあるかも知れない。

推薦者　上田貞次郎　小泉信三　河田嗣郎　高田保馬

責任編輯者　東京商大敎授 經濟學博士 中山伊知郎　東京帝大敎授 農學博士 東畑精一

新經濟學全集　全三十二卷

刊行の辭

日本は今や世界と共に全く新しき歷史の創造過程のただ中にある。世界を擧げてのこの混沌の中に眞に堅牢無比の新秩序を構成し得るものにして始めて今後の世界史の嚮導者たり得るであらう。この秋に當り萬人が透徹せる經濟眼をもつことこそは、時局に善處する眞摯なる用意であり、また確かに興亞百年の大計にあたるものであらう。

われわれはアダム・スミスの經濟眼が百五十年前の世界に對して非凡にして適確なる推進力であつたことを記憶してゐる。しかし新たなる問題の解決を迫られてゐる現代は勿論新たなる鑑識と達眼とを必要とする。しかも玆に求められるものは、單に斷片的なる知識の累積でもなければ又粗野なる空論の展列でもなく、この混亂常なく複雜なる經濟變動の底流を直截且つ明晰に見究めるところの立體的な統一理論でなければならぬ。本全集が日本の經濟學を擔ふ新銳に期待して世に贈らんとするも亦これに外ならない。これによつて經濟の戰士は新たなる氣魄を養ひ經濟の指導者は新たなる權威を加へるであらうことを確信するものである。

今日の經濟変動を鋭く分析し明日の政策への基本的方向を指示する立体的理論体系!!

內容項目及び執筆者

卷	書名	項目	執筆者
第一卷	經濟學一般理論		中山伊知郎
第二卷	經濟學特殊理論(上)	價値論	楠井隆三
		價格論	杉本榮一
		分配論	山田雄三
第三卷	經濟學特殊理論(下)	資本主義經濟理論	柴田敬
		獨占理論	手塚壽郎
		景氣變動論	武村忠雄
第四卷	經濟思潮史概論		永田淸
第五卷	經濟學發達史(上)	古代及び中世	上田辰之助
		メルカンチリズム	高島善哉
		フイジオクラシイ	久保田明光
		古典學派	木村健康
第六卷	經濟學發達史(下)	主觀學派	安井琢磨
		歷史學派	岸本誠二郎
		日本經濟學史	堀經夫
第七卷	日本經濟學概論		土方成美
第八卷	現代經濟學說	ドイツ生活經濟學	酒枝義旗
		エコノメトリツクス	栗村雄吉
		北歐學派	靑山秀夫
		イタリア經濟學	五百籏頭眞治郎
第九卷	日本經濟史		黑正巖
第一〇卷	西洋經濟史	古代及び中世	上原專祿
		近世	大塚久雄
第一一卷	產業經濟學		東畑精一
第一二卷	經濟政策總論		河田嗣郎
第一三卷	經濟政策各論(上)	農業政策	渡邊庸一郎
		工業政策	山中篤太郎
第一四卷	經濟政策各論(下)	商業政策	谷口吉彥
第一五卷	社會政策		大河內一男
		交通政策	增井幸雄
		植民政策	八木芳之助
第一六卷	統計學原論		森田優三
第一七卷	經營學及會計學(上)	商工經營論	增地庸治郎
		公益企業・國策企業	蠟山政道
		企業論	酒井正三郎
		公企業論	竹中龍雄
第一八卷	經營學及會計學(下)	農業經營論	大槻正男
		會計學總論	高瀨莊太郎
		簿記學概論	黑澤淸
		商業計算學	久武雅夫
第一九卷	銀行及金融論	銀行論	荒木光太郎
		金融論	新庄博
第二〇卷	貨幣論	貨幣理論	宮田喜代藏
		物價とインフレーシヨン	山口茂
第二一卷	保險論	生命保險論	末高信
		海上保險論	加藤由作
		火災保險論	椎名幾三郎
		社會保險論	北岡壽逸
		農業災害論	近藤康男
第二二卷	日本經濟論		上田貞次郎
第二三卷	統制經濟論	戰時經濟統制	赤松要
		經濟資源論	堀川虎三
		經濟統制法論	末川博
		價格統制と原價計算	中西寅雄
第二四卷	支那經濟論	支那經濟文化史	加藤繁
		支那經濟論	根岸佶
		支那農業體制	山田盛太郎
		支那幣制論	高橋龜吉
第二五卷	國際經濟論	東亞新秩序論	笠信太郎
		國際貿易論	油本豐吉
		國際資本移動論	鬼頭仁三郎
		ブロツク經濟論	波多野鼎
第二六卷	財政學總論	財政學基本原理	井藤半彌
		公債論	安藤春夫
第二七卷	財政學特殊問題	財政組織論	高木壽一
		地方財政論	汐見三郎
		日本財政史	吉川秀造
第二八卷	勢力論		高田保馬
第二九卷	經濟社會學(上)	宗敎と經濟	長谷川如是閑
		倫理と經濟	杉村廣藏
		風土と經濟	柳田國男
		國家と經濟	板垣與一
第三〇卷	經濟社會學(下)	民族と經濟	難波田春夫
		自然と經濟	佐藤弘
		法律と經濟	恒藤恭
		技術と經濟	福井孝治
第三一卷	資本主義文化	資本主義の將來	本位田祥男
		資本主義と社會主義	山本勝市
		協同組合論	渡邊信一
		資本主義と人口	寺尾琢磨
		都市と農村	四宮恭二
第三二卷	社會哲學概論		三木淸

豫約募集

豫約刊行規定

申込方法　申込金不要、御近所の書店か或は直接本社に御申込み下さい。

頒布方法　全三十二卷、昭和十四年九月より每月一册づつ配本

體裁　菊判、各本用クロス製裹紙附、各卷四乃至五五分册、九ポイント組ミ、各卷平均四百五十頁。

定價　每月　貳圓

送料　本社へ直接御申込みの方は會費と同時に一册につき、東京市內六錢、內地十四錢、朝鮮・臺灣・樺太・滿洲國は二十四錢の送料を御拂ひ込み下さい

締切　十月三十一日

第一回配本內容（配本中）

經濟學一般理論(1)　中山伊知郎

日本經濟史(1)　黑正巖

公益企業・國策企業　蠟山政道

物價とインフレーシヨン(1)　山口茂

每卷附錄　經濟往來

全集本文に展開さるる理論に相呼應して、本誌は每月刻下の經濟と經濟思想の生々たる躍動を報道解說し、俊敏な側面的役割を以て本全集の使命を援護する。加之その獨特の編輯方針は、多くの人々の記憶の中に親しまれてゐる舊「經濟往來」の特質を新時代の光のもとに復活せしめつつ、經濟の理論と現實を前唱する經濟文化雜誌の創生を目指してゐるのである。世に經濟雜誌・經濟學雜誌の數は少なしとしないが、アカデミーの香りとジヤーナリズムの鋭角とを綜合し、新經濟學全集の壯大なる執筆者群を背景とする新「經濟往來」の出現は、必ずや本全集讀者の歡呼を浴びることと信じて疑はない。（菊判約四〇頁）

本全集の主要特色

一、經濟學の包羅する全項目を、從來の如く平面的に羅列することなく、立體的に構築し有機的に體系化したこと

二、學界を擧げての全幅的支持の下に、中堅新進の代表的學者を總動員し、今日より明日に至る我が經濟學の最高水準を示したこと。

三、經濟學の根本理論を究明するとともに、現實の經濟事象との關聯に留意し、時代に卽應する新經濟學理論の展開をなせること。

四、戰時下の重要問題は特に項目を設けて分析解明し、東亞新秩序建設の國策樹立のために貴重なる學問的礎石を提供せること。

五、完結後體系別に製本し得る獨特の分册配本を採用し、裝幀・用紙・印刷は、諸資材逼迫の際にも拘らず特に意を用ひ、しかも本全集の性質に鑑みて價格の低廉を實現せること。

六、『經濟往來』を附錄とし、從來の片々たる月報類と選を異にする特色ある經濟雜誌を編輯、每回配本に無代にて添附せること。

日本評論社

內容見本　進呈

東京京橋三丁目四
電話京橋六一九一
振替東京一大番

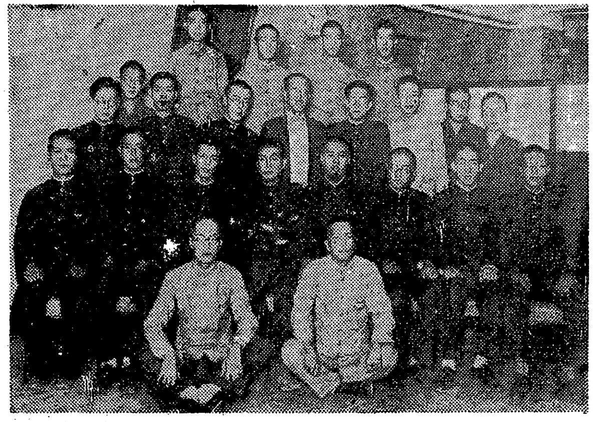
大陸は…學生に何を與へたか

支那事變が北支事變として北京郊外に於て發生してより此處に三星霜の年月は流水の如く過ぎたが、此間一部識者層の學生論は一見リベラルな處から批判性を失つたと云ふ非難は在つたにせよ、明治より現代に至る三代の學生の社會的位置の變遷に對し明治の學生は尊敬せられ、大正の學生は恐れられ、昭和の學生は侮られてゐると評し、學生の消極性をとり上げ觀念的急進主義の結果として非難して居たが果してさうであつたゞらうか、東亞新秩序建設の序幕が下された大陸に過ぎし七月全國の學生三千余名「東亞新秩序建設は若き我等の手に依つて」と興亞勤勞報國隊は結成され爾來一ヶ月余廣茫たる大陸の平原、或は滿ソ國境、蒙疆、北支の第一線に加はり積極的に興亞の聖業に從事したのである、その間の困苦、忍耐……朱紅に染つて倒れた學徒もあつた、斯くて現地の實情を目の當り體得して來た學生のフレッシュな感覺は建設途上の大陸に何を感じ又如何なる問題を發見して學窓に歸つて來たであらうか……

興亞學生勤勞報國隊 招待座談會開く

聞け！彼らの血と汗の體驗を

主催・新聞部



…九月廿一日（於明治製菓）…

…當夜の記念撮影…

挨拶

安田總務　本夕こゝに弊部主催「興亞勤勞報國隊招待座談會」を開催するに當り御挨拶申上げます、支那事變も二年を經過致しまして、國家も學生のネキストゼネレーションとしての役割を重要視致し、今迄の七、八月休暇を特に心身鍛錬期間と銘せられ、吾々も國內においてその間色々の企畫に參加しその要望に對しましたが、皆樣には一箇月餘の長い間大陸に渡られ、實際現地の狀勢を見、內地の大陸感と異なつた色々な感激、感慨と云つたものが多かつたゞらうと存じます、さう云つたものをザックバランに開陳して頂いて我々內地にあります學生の大陸認識の啓蒙、東亞新秩序建設精神昂揚の一助と致したいと思ひます、では司會を部長賀來先生に御願致し、ボツ〳〵始めたいと存じます

賀來部長　安田總務から司會をして呉れと頼まれまして……私只今出てまいります時に一寸學校の關係者が參られまして話をして居たゝめ十分許り遲れてお待たせ致しましたことをお詫び致します、先日報國隊の方々がお歸りになつた時に是非報告會をやることを決定されましたがその時には各自十分か廿分位の御報告しか得られない事情でありましたので、これは誠に短い時間でありまして私共非常に殘念に思ひましたが更に內容を伺つて見ますると非常に興味もあり又我々として是非共何はなければならないことが盛りあげられてあることがよく判つたのであります、殊に今回のこの報國勤勞隊の計畫は國家として非常に重大な計畫であるのみならず各大學專門學校學生界の將來を考へましても實に重要な行事であるのであります、これは恐らく每年引續き行はれることと信じまするし隨つて學生としては非常な關心を持つてゐる筈でありますがこの間の報告會の日に臨みまして私が感じたことはあの會場に出席して居る人が少かつた樣に思ふのであります、これは私個人と致しましても亦お互に關心を持つ我々と致しましても非常に殘念であり何か他の方法を以て出來得る限り多くの人に報告の內容を聞いて戴くといふことを痛切に感じたのであります、本夕新聞部としての目的は即其所にあるのでありましてかねて催しました報告會とは趣を異に致し隨つて色々なテーマを設けまして提供したいと存じますからザックバランにいろんなお話を願ひたいと存じます、殊に私と致しましては御出發になる時に神戸の波止場で歡送を申しあげ、また御歸りになりました時もお迎へ致しましてその都度諸君の行動が厚く僕の網膜の底に印映されて居るのでありますれば他の場合に於て我々關係する學生間のあらゆる行事とは違ひまして今回のものは非常に深厚な關心をもたれるのであります、新聞部が貧弱にして折角御招き申上げながら甚だお粗末な御馳走で失禮でありますが何卒惡しからず、どうか諸君が今回の御體驗御感想あらゆるものをひつさげて凡ゆる學友、凡ゆる人々に出來得る限り傳達する事を期待し若しそれが出來ましたならば此處に何と申し上げて宜しいか感極まる次第であります、又その四人の速記の方々も忙しいところ御參會願ひまして有難う存じます、では ボツ〳〵御飯でも食べ乍らお話をお願ひする事に致します

司會　ではこれから初めの間は指名致します、（この時竹島君入場）先づ順序としてお話し願ひたいことは既に昨年から勤勞奉仕といふことは國內でも言はれてゐるが併し勤勞報國隊としてのお氣持、覺悟といつたものは恐らく從前のものとは違つたものだらうと思ひます、尤もそれは恐らく皆樣にも色んな考へがあつたことでせう、當時隊長として行かれた關係もありますから竹島君どうですザックバランに話をしたいと思ひますが、まあその時のなんですなア—覺悟といつた樣なものですかね、

勤　覺悟された瞬間もいろいろあらうと思ひます、明日行くんだといふ時、又鐵砲を學校から持ち出したといふ時の氣持、諸君の中から隊員の銓衡せられるとき愈々內原に行かれた時、又船に乘られた氣持など、誰も違つてゐるだらうと思ひますけれどもあまり微細の點に入ると相當永くなつて了ふから先づ感想として……

（註）新＝新聞部、勤＝勤勞報國隊、司＝司會者

特異な風俗習慣

民族性をよりよく活かせ

勤A　私は行く時、終始日本人だ、俺は日本人だと云ふ民族意識で一杯でした

勤B　私もさう云つた氣持で一杯でした、出發の時は學生報國隊の一員として戰爭にでも行く樣な氣持で——勿論我々勤勞報國隊の目的と云ふものは身を以て戰爭の兵隊さんの苦勞を體驗すると云ふのにもありませうが

勤C　家を出る時出征兵士の樣な氣持でした、家に歸る樣なことは夢にも思ひませんでした出發の時はお守りを腹に卷いて行つたのですが、行つて戰爭に出して貰へないので悲觀しました

勤D　僕も千人針をして行きました、神戸を出航致し故國が小さくなつた時、大陸へ行つたら死んでも良い、ガンバルぞと云ふ感激で一杯でした、

新　では一つ上陸第一步の印象又は內地での現地觀と實際の現地との喰違ひと云つたものを……

勤A　支那と云ふところも現在では可成り文化的に進步してゐると思つてゐましたが、實際〇〇に着いて赤い土の家を見たのには驚きました

勤B　しかし外國へ來たと言ふ切實な氣もしませんでしたが

勤C　內地で考へてゐた現地と現地で見た現地と言ふものについてのギャップは大いにありますね、內地に居つた時には戰時したらですね、軍部の力のみでグングン東亞建設と言ふものは出來るだらうと思つてたんです、ところが向ふへ行くとですね、武力一點張りでは東亞建設は出來ないと言ふことを痛感しました、と言ふのは支那人は三千年來の歷史を持つて〃中華〃と言ふ驕れたものを持つてゐると云ふ誇持を持つてゐるんですそれですからどうしても〃共存共榮〃を事前にして風俗習慣を活かしてやらぬと同化は出來ないですね、內地の色々の人々がそう云ふことを既に書いてゐたと思ふんですがさういふ今まで餘り顧みられなかつた〃現實の支那〃といふものを新しい秩序の中でよりよく活かして行くこと、そういふことは大いに重視すべきだと感じたですね

新　具體的に日支提携に付いてお話願へませんか

勤　われ〳〵は局部的に行つたので大局的なことは一寸云へませんが、今次の事變が以前の日淸、日露の戰役と異なり既成政權を認めず新なる政權を設立して八紘一宇の大業に邁進するためには支那特有の民族意識の個人主義的傾向—言へば面子を氣にするところなんか……といふことを知りそれを活かしてやるといふ點で宣撫班の充實といつたことなんか必要ですね。

新　といふと日本人の對支那民族思想の研究が必要ですね、どうです、日支提携は我が國文化の支那への優越といふことは

勤　確に緊要なことと思ひます

司　以前日淸日露戰役の後には上海あたりで日本人が上陸するとそこでよく日本人は暴れたものです。例へば人力車に乘つて、言葉は無論通じませんから手にもつてゐるステッキかなんかで指ざす。そして道の角々へゆくと車夫がじつとお客さんの顏をみるのであつちへゆけ、こつちへゆけとステッキで命令する。そして言はれるまゝに無やみに驅けまわつてやつと思ふところまでゆくでせう。始め乘る時に値をきめてないのですから自分の目的地まで來ると五錢か十錢をポケットから出してやつておく、若し車夫が不服を云はうものならきつと手荒なことをする、ステッキで毆る、足でける、そりやあもう無茶苦茶です、十錢でも貰ふとそれで默つて了ふ、併し一方にはお客を待つてだまつてのせて置いて客の持つてゐるものを卷きあげるといふものも出て來ました。支那人が日本人に對して非常な反感をもつてゐたものと見られます。この時分の日本人は餘程勇敢であつたらしいです。（笑聲）その時、これではいかん、本當に偉い人はこういふことをしない、いろんな用事で學校を卒業して香港、上海に赴任してゆく人があるので、さういふ人には、暴力を揮ふのが偉い樣に見せつけると支那人の反感は益々募る、貴方方は決してあゝ云ふ亂暴なことをせずにおきなさいと云つておきましたが……

勤　支那人といふものは何處へ行つても値段を商品につけて居ない、がこれに對し支那人は「お客さんによつて値がちがふからつけてなくてもいゝんだ」と言ひます、一圓位の品物でもお客によつては二圓となり七十錢ともなる、ドランプでも私は或百貨店で一圓九十錢で買つたけれども他の學校の學生は八十錢位で買つて歸つた、正直な私は（笑聲）先方の云ひなりに買つたんですが、これなどその最も具體的な例ですね（爆笑）……。例へば一つのものを買ふ場合十錢のものを五錢にしてくれ、五錢にせよといつて買ひにゆくでせう。向ふが十錢と云ふですね、それを更に五錢にせよとゆするんです、まあさう云ふやりとりを繰返してゐるうちに五錢でゆづると云ふことになります、それに貧乏で十錢のもの〻買ふ場合に五錢しか持つて居ない人には、十錢のものが五錢になつてわたるんです。日本人としては「不都合なすことをする、いかんじやないか」と云ひますけれども全然考へが違ふ、貧しい者には貧しい樣に支拂はせるんですね「君はその物に對して十錢の値が公正であると認めたのだから十錢支拂つたんぢやないか」そう云はれて見ればそれまでゞすからね

新　いゝところありますね（笑聲）

新　それも一つの理窟ですね、全くイデオロギイーの相違も甚だしいです

勤　滿人に賣るのと日本人に賣るのと値が違ふ、どうしてかと云ふと「日本人は金持だ」とさういふんです

勤　それなどに就いては新生活運動を受けて新しい意識に目覺めた人たちは非常に弊風を自覺してあちこちで正札を付けるやうに努めてゐるさうです、そんなことも本人は「我らで賣つたつて噓はない」さう云ふ氣持なんでせうがね、蔣介石が云ひだした新生活運動によつて支那人は現在の商習慣はいかんと云ふことを自覺して居ります、さう云へば新生活運動といふのは、本當に或程度成功してゐるのですね——

新　封建的な支那もやはり幾分でも變つて行つてゐるのですね

滿洲移民の現狀

看過出來ない一つの眞實

司　では大陸建設に關聯致しまして植民の現狀を——一體滿洲の移民と云ふものは我々が內地で考へてゐる樣に成功してゐるのか、失敗してゐるのか、この中間であるのか、二十年後には成功するのか、と云ふことを聞きますが實狀はどうなつてゐるのか、と以前から關心を持たれてゐたのですが、牛が何頭、馬が何頭云々といふ風な統計的な數字的な發表が多くて移民の方々と直接話をなすることもなかつたんですが、又、移民の部落を目擊するでもなかつたんですが、そうかうしてゐるうちに牡丹江に歸る汽車の中で向ひ側に坐つてゐた人が——日本人ですが——僕等の腕章を見てなんにも言はずにたゞ「御苦勞さんです」と云つた。はてな？と思つたんです、僕等は黑の腕章を卷いてゐるんです、どういふ契機で話したか[illegible]ませんが、その人は佳木斯のタカムラから友人の遺骨を持つて歸る移民だつたのです、その人の話によると實際は四十人がですね一定のところに行つても四十人が四十人とも全部が鍬を揮つて耕すことが出來ない、そのうちの十人は家を建て他の十人は炊事をやるといふ風にして結局鍬をもつて耕すものは十人しかない、その十人が四十人が一年に食べるだけの米を作るのです、隨つて仲々仕事が捗どらない、耕作の收入は勿論のこと、滿洲移民としては金錢といふものを度外視して物品によつて生活しなければならぬと云つてよい、月に二圓の小遣ひと云ふものが各人にわたされるのですが、その二圓の小遣ひでやぶれた服の修繕もせねばならん、その他色々子供に菓子や玩具等も買つてみたら二圓の金ではどうすることも出來ない、そのほか何所をみても賊が非常に多いさうで、賊を追ふだけでも大へんである、一ぺん賊に來られると全然出來ない、賊の番に夜通ししたところ大へんである、實に滿洲の移民といふものは並大抵の苦勞ではないといふことを言つてました。その人が言つてましたが、イヤサカ村とかの方面の移民は移民では古いのですが非常に派手な生活をしてゐると言つてゐました——例へば地主になつて與へられた土地を滿人に貸し與へて地代を取つてゐるのです、それによつていろ〳〵生活をやつていこうと言ふんですね、それもどちらかと言へば派手な生活をしてゐる、こういふ風なので滿洲移民と言ふものは今までどうしても成功しなかつたのだと言ふ樣なことを言つてゐました、とにかく私の話した人達は相當に奮鬪してゐるさうですがそれでも餘り樂觀出來ないところから考へると所期の目的迄には相當の困難が豫想されるんぢやないでせうか？こつちの新聞紙などにはいゝなばない所ばかりを書いて本當のとは知らせてないんですね

新　その人は移民の動機などについてはどう言つてゐました？

勤　その人は義勇隊の人で佳木斯の移民村の人ださうです。移民に來た動機を尋ねましたところ「君たちも知つてゐる樣に僕も內地の生活難に追はれて渡つて來たんですがその決心たるや一通りや二通りの決心では無かつたのです、しかも渡つて來てからもそう決心したに拘らず內地以上の生活難には落膽せざるを得ない」といふ樣に言つてました、こんなこと別に宣傳にもなりませんがこういふ樣な一つの眞實があるといふことは、今後の大陸政策を考へる上に充分知つて考慮しなければならないと思ひます

勤　我々が考へるところの今度の支那建設は非常に大きな事業でありますが「政府の滿洲移民に對する政策は積極的にどうかならんものか」といふことそういふものが「移民政策の再建」と言ふことにやゝもすれば意味を取違へるわけですね——

華人の對日感情

新建設に對する猜疑の眼

新　北支の方の日本人はどんな風に生活してゐますか

勤　さうですね——まあ日本人と言つても事變後の日本人と事變前の日本人は大分違ひますね、密輸とか事變前の日本人はさういふ闇取引といつたものばかりやつてたと聞きました、事變後に行つた人々は概して軍なんかに關係のある人や、その他立派な人も多數行つて指導しておられるので支那人は「日本人にもこんな立派な人が居つたのか、日本人と言ふ者は惡い事ばかりする人種だと思つてゐたのに日本人にもあんな立派な人が居つたのか」と言つて驚いてをりました、さうですから事變後に行つた人々は相當に正當な生活をしてゐて網の上を渡るやうなことはしてゐないと見て間違ひないと思ひます

勤　あちらには女の人は大へん少くて大抵飲食店とかさういふ所にしか見られない、既に結婚した人でもわがもの顏に洋車に乘つて町の盛り場を橫行してゐて僕等が傍へよつても見向きもしてくれません（笑聲）女の人はそれで相當收入があるんです、何しろ今言つた通り大變少いんですからね

新　もつと眞面目なさうして生產的な職業はないんですか？

勤　大抵飲食店以外にはないですな——電話の交換手や邦文タイピストでも支那人の女やタイピストを使つて充分やつてゆげるらしいです、却つて日本人より早い位だと言ひます、そしてこれは勿論のことですがインテリ支那人でもまだまだ日本に對して猜疑心を持つてゐる——

新　どんな猜疑心でせうか？

勤　東亞建設といつて口ではうまく言つてゐるが日本は領土的野心があるのぢやないか、或ひはどんな事をするかわからんといふ樣な考へを常に念頭に置いてゐる

勤　これは自分の考へですけれどもこれまでの植民地政策のみならずこの政府の聲明といふものがあまりに觀念的、抽象的なんですね

勤　支那人は猜疑心になやまされ乍らも實のところは近衞聲明をそつとそのまゝ信賴し近衞聲明をたゞ賴つて行きたい樣な氣持も多少あるのぢやないですか

新　と申しますと日支提携、經濟工作、共存共榮の三つの全部ですか、それともどれか一つにですか

勤　和平の一語だけです、民衆は無智でも日本の實力は認めてゐるのです。東亞建設に中國も日本も各々責任をもつて協力する、文化的な色々の方面において蔣介石も態度を改めたらゆるさないこともないその點を非常に信賴したく思つてゐるんです

勤　それからこの事變になつてからといふものは日本に對する見方が違つてゐるんですが「本當に日本は〃建設〃してくれるんだらうか」と支那人としても考へがグラ〳〵してゐる。これは今迄の日本のやり方がよくなかつたのですね、これはほんの一例に過ぎませんが、イギリスが支那で事業をする場合には實權だけ握つて居つて實際には支那人に働かす、支那人は支那人同志では安心して取引するんですが日本に對すると幾分猜疑心が生じて、そのほか日本人と商賣はしにくいといふ樣な點があつて日本人と商賣するのを自然中止してしまふといふやうな結果になるんです、さういふやうなことから今迄は支那人と日本人との結び付きがうまく行つてなかつた、ところがイギリス人は人の行かない樣な所まで進出して權利を掌握してゐるが日本人はさういふことは全然やらなかつた

新　ジェスチュアが必要なんですね

勤　新東亞の建設といふことがいはれてゐますけれど、現實に仕事に當る人が僕等のやうな若い人が居なければ……僕等青年が行つてやらんと、四十歲、五十歲の人が行つてやつてゐるやうですが、今迄行つてやつてた仕事は生温るかつたんです、支那人の氣持に合ふやうに仕事をやらなければならんと思ひます、なまぬるい仕事をやつてゐるといふやうなことでは支那人とむづかしいことをするのは出來ない

勤　そしてこれは先程もどなたか云はれましたが支那人の性質を本當につかむと言ふことが大變必要ですね「日本人と取引をやつたら損をする」と言ふ考へがあるらしいです、また支那人同士でも物になると見た場合は皆寄つてたかつてそれを育て上げてたかつてゆく、日本人は日本人同士ではたかつてゆかないだらうけれども皆一旦氣が合はないとなると「あれは廣島で喰ひつめた男で到底物になる樣な男じゃない」と言ふ樣なことを言ひ觸らし侮蔑したり物にならうとする前にその鼻をたゝき折ると言ふ傾向もある、そう言つた點で異心同體と言ふことは日本より支那の方が進んでゐる、併し支那人には株式會社は出來ない

勤　山東省には耕すべき土地はもうないさうですよ、それでこれからは開墾ではなくて日本人の技術が必要なのです、技術を移入して今まで一の收穫しかなかつたところを三に增やす樣にしてゐる、山東省は內地の樣に山の上まで階段式に全部耕されてゐる、そこが滿洲と違ふところで人口の密度なんかは日本の平均密度より遙に大で、山東省の人口は日本の中で臺灣や本土位あります、日本の密度は本土だけで一平方粁百卅九人であるが山東省では二百廿九人位で約日本の倍になつてゐます、そんな狀態ですから日本人が進出するとすれば農業は勿論のこと高等な技術の移入と云ふことが先づ考へられなければならないですね

新　商工業の現狀はどんなものでせう？

勤　全文の八十%の石炭は北支から產してゐます、會社は組合と株式の中間あたりが成功してゐる樣です

新　向ふでの事業は滿洲の方とは大分異るでせうね

勤　滿洲で成功したからと云つても支那では同一手法では失敗することが多くあるでせうね、大いに研究する必要があります

勤　更に角向ふに行く人は永久に向ふに居るつもりで本腰を据ゑて行かないと駄目ですね

新　覺悟の問題ですね、さうして自己一身の利益は度外視して國家百年の計の礎になる積りで行く樣でなくてはならないでせうね

報國隊に不滿あり

來年度は計畫充實を圖れ

勤　では來年もまた報國隊が派遣されると思ひますが、一つ皆さんが參加されてどんな風でしたか參考迄に

勤　行く人は絕對的に體力の有る人で一箇年前に學校で訓練しておきその間に大陸を研究して行くと得るところが大きいでせう。

新　これは或る社會人が言つたのですが、學生勤勞報國隊と云ふものは向ふへ行つて內地における勤勞奉仕と同じやうな肉體勞働的なことか、或は宣撫班に協力して文化的建設に參加するんだとばかり思つてゐたのに第一線に迄行つて〇〇行爲に參加したなどは實に意外であつた、と話してました

勤　或學校だそうですが、勤勞報國隊といふから勤勞奉仕をやる積りで來たんだといふ學校もあつたと聞きましたが……

勤　青少年學徒に下し賜つた勅語に具體的に奉答することは單なる計畫で完璧を期すなどと云ふ事はむつかしい、と云ふ意味で今度の計畫は時間的に少し餘裕が無かつたのぢやないか、計畫、人員募集、訓練勤勞奉仕、特に大陸認識を深めて國策への認識をより一層昂めると云ふことに對しては今度の計畫は幾分無理があつたやうに思へます、あゝ言ふ期間はもつと延長してほしいと思ひます

勤　また現實の狀勢を偲ぶと云ふ事は非常に重要な事でもありますが……來年度の實施にあたつては今回の試驗的な企てに鑑みられて今後はずつと充實を圖つて貰ひたいと思ひます。實際大陸認識と云つても四日間位では分らないし、僕等が專攻してゐる法律、經濟、政治學などそれ〳〵勉强したくてもそんな機會が全く與へられなかつたと云ふことは今回が千載一遇と云つても良い好機會であつただけに全く殘念でした

勤　僕等があちらへ行つて各地を訪問した時には大てい軍司令官か參謀長の說辭等がありましたがそれを聞くために殆ど一日を費す樣なことは僕等としては有難くなかつた、朝早くからトラックにつめられがた〳〵ゆられて遠いところまで出かけて行つて訓辭や訓示を十分間位聞くために一日を費す、その一日を何か他の有益なところの見學とかさういふ方面へ融通して貰ひたいと思ふ

勤　來年からの計畫には是非共そんな點は改善して欲しいと思ひます

勤　それから各地を見學に廻つた時、たとへば新聞社とかさういふ所へ行くと先づ最初に統計を見せて、それはあーだこれはこうだと云つてパンフレットを呉れます

勤　さうだ〳〵、パンフレットは澤山もらつた（笑聲）

勤　そして機械とかさういふ物を一通り見せて「さあもう濟みました、歸りたまへ、詳しいことはパンフレットに書いてある、歸つてからゆつくり見給へ」と云ふ、すべてがさういふ調子ですから、何が何だかさつぱりわかりませんでした。

勤　同感ですね！

新　それから娛樂機關にはどんなものがありましたか？

勤　まあさうですね、大抵飲食店が主でせうね——映畫館等は大都會へ行かないとありませんね、小さな町に行くと絕對に映畫が見ようたつて見られません

新　諸君等は內地へ歸つてから病氣になられませんでしたか水なんかにあたつて？

勤　僕はなんともありませんでした

勤　僕はやりました、歸るとすぐ故郷の方へ歸つて行つたんですがしばらく寢ましたね

團體精神を發揮

〃關大精神〃の美しき流露

新　あちらでは生水は絕對にいかんと言つておりましたが生水なんかは飲まれましたか

勤　自分等は敎官から生物を喰べる樣なことのない樣にしろと言はれておりましたし、僕等同志で申合せて歸る時には一人も病氣にならずにみんな揃つて歸りたい、病氣なんかになつたら困るといふのではなくみんな揃つて苦勞しに來たのだから又揃つて元氣で日本の土を踏まうぢやないかと云ふ申合せで生物は絕對に喰べない樣にしました、他の學校の生徒たちは果物やサイダ一等澤山買つてもつて行きました、僕等も隨分欲しかつたが申合せがあつたので止めました、行軍の途中友達の一人は果物を持つてゐましたが僕等との約束したことに氣が付いて非常に惜しいことでしたが谷へ捨てました

新　さういふことは團體的精神の發揮で本當に良いことですね

勤　僕等三千人が××に上陸した時に附近の人が僕等を日本の軍隊の上陸と間違へて非常にあわてゝゐました、それで或人がそれ等の人々に「あれは日本軍ではない、あれは學生勤勞報國隊と云ふものだ」と云つたが「あんな學生があるものか、學生といふものは頭の毛をのばして、ネクタイでも結んで背廣を着て颯爽としてゐるが、あれらは頭はのばしてゐないし鐵砲を持つてゐて服裝も兵隊のやうな格好をしてゐると云つた」それに勤勞報國隊といふのが支那の言葉で言ふと侵略隊といふ言葉によく似てゐるとかで「日本の軍隊が侵略しに來た」と言つて騷いだ、そしてその騷ぎは仲々とまらなかつた

勤　僕等が上陸して了つてから北支の大學生と一緒に勤勞奉仕をやつたことがあります、北京大學の生徒はハイキングの樣な服裝をして行くおつきあひにしてゐる樣で、同じ仕事をするにも僕等が一日で仕上げて居るのに北京大學の生徒の方は出來上らずそれで僕等が應援に行つてやつと出來た

勤　それから私が〇〇から夜行列車で宿舍へ歸つてくる時に沿線のあちこちにポツ〳〵とトーチカが見えてその銃眼から淡い灯がポーッともれてゐるのを見ると何だか氣持が悲しい樣な淋しい樣な氣持でした、驛へ着いても、一つの驛に〇人から〇人位の步哨が立つてゐる、步哨といふのは〇時間交代で立つてゐますがところによつて汽車に乘つて行つて步哨に立たなければならないところがある、そんなところで立つもの〻苦勞は一通りではない、それらの步哨は交代が無く夜通し立つて、番になると村の青年團を集めて各驛[illegible]を日本語で敎へてゐる、そう言ふ步哨の苦勞はニュース映畫の材料にはならない淋しい鐵道の兩側に步哨がポツンと立つてゐるだけなのです

新　いよ〳〵歸る時、どんな感じがしましたか？もつと居りたいと思ひましたか？それとも早く歸りたいと思ひましたか？

勤　僕はもつと居りたいと思ひました、何だか卅日位で歸るのが殘り惜しい樣な氣が致しました、もつと彼の地に踏み止まつて彼等を指導しまたは東亞建設のために少しでも役立ちたいと思ひました

勤　これは餘談ですが後から聞いた事なのです、それは長崎醫大、大阪商大、東京帝大の學生やその他の何處の大學の學生生徒も「俺は餞別に三十圓貰つた」とか「五十圓貰つた」とか言つて居りましたのを聞いて僕等は何にもない、別に餞別が欲しいといふんではないがこの事は學校當局として考へて戴き度いと思ひます

勤　僕も學校當局がもう少し考慮があつて然るべきと思ひます、今度の報國隊員の募集でも[illegible]一日間に募集したのでは……もつと學生の動向に注意すると同時に、もつと親切であるべきでせうね

新　確に今度は學校側の手落ちも言つたら言へるかも知れませう、さう言つた空氣が報國隊參加人員の數の少かつたと云ふことにも影響してゐるでせう、學校としても今後はもつと考へて然るべきですね

出席者

（報國隊側）	司會者	（新聞部側）
荒川彌一郎	賀來敎授	安田義哲
竹島武男		稻森道彥
得丸正雄		山中德雄
吉田八郎		入江功二
永井威		南正人
西谷輝久		千原啓治
川上獻三		東正澄
苗村德五郎		大河原八郎
渡邊喜弘		他部員數名
東原和夫		

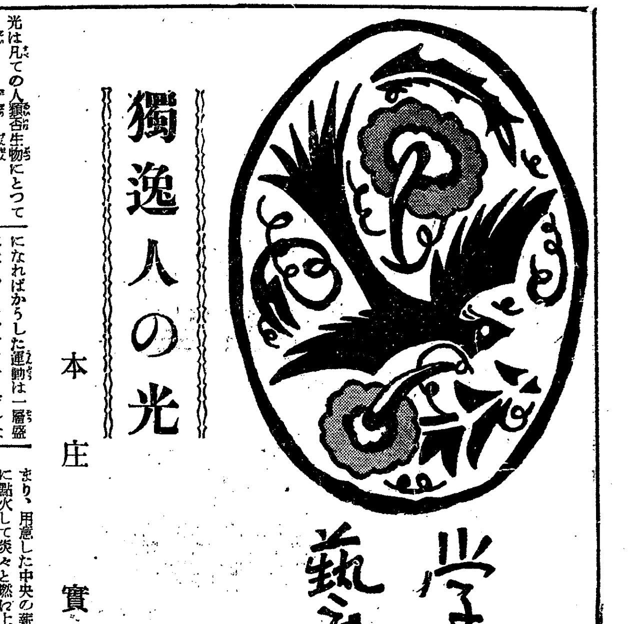
讀書の秋!! 好箇の贈物

圖書館新著書

沁み入る秋の夜靜、虫の音を耳にしながら燈下親しむ秋、讀書の最もよいシーズンを迎へて本學圖書館の現狀は如何に？と覗いて見ると、本年度初から約六、〇〇〇冊を增加して九月二十八日現在では四二、八四〇冊となつてゐる。そのうち最近の目星しいのを拾つて見ると

世界觀の問題（務台理作）日本の知性と技術（三枝博音）經濟思想と學說（伊藤久秋）交通機關と交通政策（河津暹）價値、資本及地代（ヴィクセル）上代支那法制の研究（根本誠）東洋文化史大系、日本文化史大系、綜合日本史大系、現代支那講座（東亞同文書院）近代劇全集（第一書房）一般財政史考（カン上）東洋文化史大系（誠文堂）等で學生の大いなる利用を希望してゐる

古典趣味 實用本位 中古Camera の交換會 十ヶ年保證
買受も市價の一割增 鏊 交換も一割高で中受
新版 通俗寫眞術 送料共 カメラに添附 無代で添附
夜八時迄營業 日曜祭日休業
改訂 ライン簡易露出表 カメラに添附 郵送は切手十錢
品質は優秀 價格は低廉 國產Camera 初心歡迎 十ヶ年保證
口錢半減 賣上三倍主義
河原寫眞機店
大阪市 東區 堺筋 瓦町電停前 北濱局 78 79 1910



獨逸人の光

本庄實

光は凡ての人類否生物にとつて生命と力と希望の源泉である。だからどの民族も昔から光や火を崇め神聖視する。しかし物があり溢れてゐるところでは物の眞の價値を忘れ勝ちであり、物が不足するところではその物の眞の有難さを知る。

日光 の尊さもそれに惠まれた熱帶よりも寒帶の人の方がよく知つてゐるであらう。同じ歐洲でもアルプス以北の人と以南の人では日光と熱とに對する認識と利用の程度が大分違ふやうである。

ドイツ人などもその國がずつと北に寄つてゐる（伯林が北緯五十二度半）だけに日光に惠まれること少なく、それを有難がること並々ではない。九月頃から翌年の四月頃まで一年の大半は空はどんより曇り、日本の秋晴のやうな日は滅多に見られない。冬は午後四時頃には早や日が暮れ、午前八時頃でないと夜が明けない。その陰鬱さと來ては實際堪つたものでない。この惠まれない天氣と闇とに鬪つた所に歐洲の近代文明發達の原因の一つがあると思はれるが、人工的の光や熱は到底太陽のそれに及ぶべくもない。

だから長い冬眠から天地が春の目覺めをする時の獨逸人の歡びやうは非常なものである。殊に

太古 のゲルマン人のその時の歡びは尚更大きかつたやうである。復活祭は元々その歡びの祝祭であつて今日基督教の祭となつたのは同教が獨逸に入つて來てからそれを採り入れたからに過ぎない。殊に五月ともなり、空は麗はしく晴れ、日光はさん／＼と注ぎ百花は一時に開く候となると、人々は三々五々群をなして野に山に繰り出して日光の中を縱橫に歩き廻る。それにも飽き足りないでまだうすら寒い五月の空の下で着物を脱ぎ捨てゝそこらの川や湖で沐浴する。日の照る間に出來るだけその光を全身に吸收しようとするのである。夏になればかうした運動は一層盛になる。ワンダアフォーゲルなどもかうした運動の一つである。それは自然を愛するドイツ人の欲望から精神的効果をねらふ目的から出たものでもあらうが、又僅に與へられた日光の輝く期間にそれに浴しようとする自然的欲求からも來てゐるのであらうと思ふ。又ドイツの山や森を歩いてゐると所々に日光浴場に出食はす。ドイツには日本などに較べるとセムシが非常に多いが、それは日光の不足に基くものであり、さう云ふ病氣の豫防のためにも又一般健康のためにもかうした設備が特に必要なのであらう。

獨逸人が光を如何に尊ぶかと云ふことは大陽が最も地球に近づく夏至を迎へて盛な祝を行ふことを見ても解るであらう。卽ちその前夜に人々は手に手に炬火を持つて廣場に集まり、用意した中央の薪の山に點火して炎々と燃え上る焔を取り圍んで昔から傳はる歌をうたつては光と熱とを褒め稱たゝる。或は又附近の山に登つてその頂から火の輪をころがし落とす。これはやはり古代ゲルマニア時代からの風習である。

が、ナチス政府になつてから、之をナチス的に理論づけてナチス的規律の下に行つてゐる。この六月二十一日に神戸在住の獨逸人も市立運動場に集まつて彼等の祖國を偲びながらその祝を行つた。ナチスと云へばその旗章の鉤十字も古代ゲルマン人傳來のものをナチスが復活したもので、それは光とそれに伴ふ熱と躍動とを意味するものと云はれてゐる。詩人シラアも「光と熱は人類最高の理想である」と云つてゐる。

前に述べたやうに獨逸は一年の大半は日の目を拜めぬ國だけにそこの人達の日光と

色彩 に富む南歐殊に伊太利に對する憧憬の強いこと驚くばかりで殊にかのゲエテは陽性で躍動的な詩人であつただけにそれが人一倍强かつたやうである。有名な詩ミニヨンもさう云ふ獨逸人の南國への憧れを最も具象的に歌つたものと云へやう。彼の伊太利行も彼の思想的苦悶からの脱却と古典藝術への憧憬とに基くことも勿論だが、かうした光への明るさへの熱望もその動機の主なるものであらう。西暦千八百卅二年三月廿二日八十三歳で彼が息を引取る直前、家僕に「二番目の窓の雨戸を開けて、もつと光を入れよ」と云つたと云ひ傳へられてゐるが、斷末魔を前にして方に死滅しようとする視神經が光を受入れることが出來なかつたことは人一倍

光明 を愛するこのドイツ詩人の耐へ難いことであつたゞらう。またこの「もつと光を」をゲエテは云つたと云ふことは確な證據はなくて怪しいと云ふ說もある。或はさうかも知れぬ。若しさうだとしてもゲエテがさう云つたとしたがるドイツ人の心には彼等の崇拜する偉大なドイツ詩人の口を藉りて自分達の光明への憧憬を表はしたいと云ふ潜在意識が働いてゐたのではあるまいか。なほこの一句にいろ／＼深い意味付けを試みる人達が多いやうだが、それはそれ等の特殊なゲエテ崇拜家に任して置くことにしよう。

日本を知らずや

入江來布

日本を知らずや花野晴れやかに
大陸へ移す七草小菊かな
沼々とうちよする磯の天高し
渡り鳥故國ぞひろきおもひなる

北京回顧

萬壽山に景山に秋は來てぬべし
蘆溝曉月和歌の浦にて見る月も

吉野神宮御祭神六百年御式年祭は
仲室なりければ

月の雲建武延元語り居に

初秋と人の心

隨筆…　江里口春志

今我々の住む宇宙を靜かに考へて見る。太陽も月も星も我々の住む地球も一つとして靜止してゐるものはないと天文學者は教へてゐる。我々の目前の事々物々皆一日と雖も變化しないものはない。一つの生物、一片の土塊、思へば思ふほど不可思議である。今庭ではコホロギがコロコロと鳴いてゐる。愈々秋の香がする。年々歳々今ごろになるとそろ／＼蟲の樂隊が始まる。涼風はしきりと網戸を通して入つて來る。秋の夜は誠に氣持がよい。七月、八月と酷暑の候を通過して秋の訪れはこうした夜に味はれる。盛夏は一年の中で森羅萬象の最も盛なる時であつて、秋は收穫の時である。最盛期を經た初秋はサラサラと吹く風の音にも、蟲のさへずりにも一抹の哀れさを感じさせないでは措かない。

然し何と言つても空は次第に高くなり、空氣は益々澄んで來る

收穫の時 であるから種々の果物は豐富である。人間の胃腸も消化液の分泌は高まり食物の豐富と相俟つて心身共益々好調である。夏季のダレ氣を一度に回復する時である。活動するにも讀書するにもさしたる苦痛はない。大自然といふものは實に不可思議である。土と水から春芽生へた草木も夏季鬱蒼と青葉に包まれ秋が來つて實を結ぶ。冬が來ると來るべき春の用意をする。これが何千年の昔から今後も殆んど永遠に近く繰り返されるであらう。

秋にはすべてのものが熟する。人體も勿論ひきしまる。完成の時である。秋の虫も、幼虫から成虫へ。秋の夜の蟲々の樂も成熟せるものの豪華版ではあるまいか。幼虫から成虫へ僅かの壽命しか持たぬ虫々がここを先途と鳴き奏でてゐるのも、宜なるかなと肯かれる。空にさまよふ雲の種々相、さら／＼と吹きよする秋風、春が心身共蕩然たる時とすれば、秋は何かしら心身を透徹たらしむるものがある、秋も末になると樹々の梢も次第に淋しさを増し、十一月にもなれば

落葉片々 寂寥落寞の感がひしひしと迫るものがあるが初秋には左樣なこともなく、氣溫はよし誠に申分ない。

人間の一生にも春あり、夏あり、秋あり、冬がある。人生百歳にも充たぬ間には種々の出來事に出遇はねばならない。人間は悲しむ。難病に惱む。自己の生活にのみ閉ち籠もるものには堪へ難い苦痛であらう。自己の生活を中心としてのみ生きる者には宇宙の流れは自分の本意に充たぬものがあるであらう。然しながら、人間が好むと好まざるとに拘はらず、宇宙は宇宙全體の目的に向つて何の遠慮會釋なく行進を續けて行くであらう。

大自然の 森羅萬象悉く不可思議に出來てゐることは既に述べた通りである。今コロコロと鳴いてゐるコホロギにしたところが一體こんな町のせまい庭にどこをどうして入つて來たのであらう。恐らくは先祖代々この庭に棲息し毎年このころになると活動を始めるのではなからうか。土と水から庭の木々の青い葉が出來たり、赤い花が咲いたり、考へれば考へるほど不思議だらけである。殊に吾々の腦細胞など不可思議の極致ではなからうか。十年も廿年も前のことを記憶もするし、種々の複雑な事を考案もする。初秋の絶好の季節を涼風に吹かれ蟲の樂を聽きつゝ靜かに机に凭りかかつてゐると後から後から不可思議が頭腦の中を去來する。幽靈や何處なりやと尋ぬれば我身を始め居らぬところなし。とシエクスピヤが云つたやうに。「瞑想の秋」かな——。

× ×

一體學生、生徒と云ふものは元々「これから教へるべき」立場にあるもので當局がこれを「善良に教育」して行くべき性質のものである、これを「不良」扱ひにして彼等のみに制裁を加へるのは片手落ちの非理である。夫れよりも「何が彼等をして斯くならしめたか」を詮議して夫れへの

對策を講 ずるのが先決問題で又根本療法であると考へる。

授業時間に相當する日中時に喫茶店に入るはその現實の行爲から見れば正しく不良の行爲である。しかしその時間は「何々教授の休講」で教室で授業を受け度くも受け得ざる時で已むなく教室外に出でざるを得ない時であつたとしたらどうであらう。「教授休講」の時は圖書館或ひは其の他の學習機關に就いて學生、生徒の本分を盡すのは彼等の義務であり、、彼等も亦全然之を忘失して居るのではないが之に代るべき是等機關が不完全であつて彼等が求めても之を利用し得ない時は「どうすればよいのか」判らない、差し當りて適當に之を

指導する ものが無い時は致し方なく可哀相にも外出せざるを得なくなる。若し斯かることが度重なれば又「習ひ性となり」遂に張合が拔け怠惰となり缺席も餘儀なくなり心ならずも所謂「不良學生」となるのは實に悲慘の極みである。現實の「不良」「惡」もその因りて起りし根源を遡る時に「絕對絕命」の絕對境の存することを考へて貰はなくてはならぬのである。

學生・生徒は正しく敎へらるべきもので云はば天下の未成品である、白紙である、書き手によりては或は反古にもなり得るものである、彼等を左右するものは彼等の廣き意味の「敎育責任者」である、その敎化の「出來損ね」が所謂「不良學生」である、氣の毒なのは不良學生自身であり斯くして彼等は不良の汚名に泣かなくてはならぬと考へる時に感慨無量なるものがあり、秘かに淚なき能はざるものがあるのである。

田尻俊二君の思出

〃忠靈塔〃の一柱のために

堀正人

田尻君は見るからに柔和な感じのする人だつた。體が大きく力がとても强くて、柔道は五段もとつたのだが、それでゐて、ちつとも人に威壓的な感じを與へなかつた。君は色が白く、肉附きがふくよかで、それがいくら柔道の練習をしても、少くとも見たところ、硬くならないやうな性質だつた。君は仲々の美丈夫だつたが、櫻色の面長な顏には、いつも人懷こい

眼・が・微・笑 してゐた。そして嗄れかゝつたやうな聲で、心持ち下唇を出して物を言ふ時なぞには特に愛敬があつた。

僕は田尻君の怒つてゐるのをついぞ見たことがなかつた。たまたま道場で下級生の部員を叱つてゐるのを見かけたことはあるが、少しも酷い嫌な感じを受けなかつた。田尻君が時たまむづかしい顏をしてゐると、却つて微笑ましくなる位だつた。部の親睦會の寄合などには人氣は殆ど君一人に集まる觀があつた。君もまたそんな時には好んで歌つたり踊つたりした。けれども君には意識的に一座の中心にならうとするやうな差し出た感じが無く、嫌味なところが微塵も無かつた。他の者が手を打ちながら歌つてゐる眞ン中に、伸々と大きい君の肢體が豐かなリズムをもつて踊つてゐる、それを見ると皆ほのぼのと樂しい氣持にさせられるのだつた。これは他人には容易に眞似の出來ない君の持つて生れた人德といふものであつたのであらう。

だが君が柔道部の學部主將になつた時には、實のところ僕は內心稍々危ぶんだのだつた。君は餘り物柔かで愛敬があり過ぎる。學部主將といふやうなものには、君よりも少し嚴しい精神を持合せたものでなければ不適當だ、と僕は思つたのである。ところが、さて君が主將になると、——それまでは學部主將が自分自身で下級部員の練習をつけたりなどは餘りしないものだつたが——君は平部員でゐた時よりより以上に道場へ出て來て率先して練習を始めたものだ。口先で喧ましく言はなくとも部の統制が自然に保たれ、部員が君を愛するばかりではなく、君に推服するやうになつたのは言ふまでもない。僕は物柔かで朗かな君の心の奧深いところに眞劍なものが潜んでゐるのを以前から承知してゐない譯ではなかつたが、これを明瞭に事實の上で示された時、一種嚴肅なものに觸れたやうな感じに打たれたのであつた。

僕が君に逢つた最初の記憶はどうもはつきりしないが、最後の印象は餘りにもはつきりする程殘つてゐる。それは一昨年の暮の或る夜だつた。家族のものと一緒に神戸の元町を歩いてゐると、大分距離のあるところから「先生」「先生」と大きな聲で僕を呼ぶ

背・の・高・い 兵隊さんがある。そのごろ神戸あたりで見かける兵隊さんは大抵戰鬪帽を被つてゐたやうであつたがその兵隊さんは珍らしくも赤い鉢巻の軍帽を戴いてゐる。そしてその帽子の所爲もあつたのかその兵隊さんはとても赤い顏をしてゐるやうに見れる。僕は何か珍らしいものを見たやうな感じがして、誰かと思ひながら近寄つて見ると、それが田尻君だつた。もともと色の白い顏が、日に燒けても黑くはならないで眞赤な色を呈してゐる。體も以前よりは引緊つて、一層立派になつてゐる。それがまた歐羅巴人などとはおのづから別な、典型的な日本人とでもいふやうな明朗で純正な美しさに滿ちてゐる。誇張でも何でもない、櫻に日が照り映えてゐる感じである。僕には何故か一瞬間、田尻君が古い日本の神々の中へそのまゝは入つて行つても、神々はよき子孫として君を迎へて下さるだらう、といふやうな氣がしたのである。その時君には連れがあつたので、殘念なことに暫く立話をしたゞけで別れたのだつたが、別れ際に君は「今日は一日休暇でこちらへ遊びに來ましたが、いづれ近い中にあちらへ出動することになりますから、それまでには乾度も一度お目にかゝります。」といつた。けれども僕はとうとう君に再會する機會を失つて、君はあちらへ——いや、終に神々の國へ行つてしまつたのだつた。

あちらへ行つてからも君は、軍務の忙がしい中から數回手紙を呉れた、その中の二つは僕にとつて特に感銘が深い。といふのは、その一つは去年の神戸の水害に僕の安否を氣遣つて逸早く寄越して呉れた見舞狀である。そしてその手紙の最後にから書いてあつた——「この手紙には是非至急返事を頼みます、さうでないと僕が心配しますから」——如何に筆不精の僕も感激して早速、お蔭で無事だといふ返事を出した、それからもう一つ、それは君の戰死の少し前に屆いた手紙である——「僕はこちらへ來てから仲々勉強家になつて、軍務の暇々に大いに本を讀んでゐます。パール・バックを讀みました。マーガレット・ミッチエルも讀みました。……だがいづれ又討伐に出かけたら、大いに奮鬪する覺悟です。今から腕が鳴つてゐます」——僕は陣中で新らしい書物に讀み耽つてゐる君の姿に詩を感じ、新らしい軍人を感じた。

そして新しい東洋の建設に、新しい時代に對する認識を具へてゐて、しかも强くて勇敢な君のやうな軍人が如何に必要であらうかを思つた。それだのに君は君一人にとつてだけではなく、日本全體にとつても多望な前途を殘したまゝ死んでしまつたのだ。君の父君からのお便りによると、君は寡兵を以て數千の敵に當り、勇戰力鬪、身に數彈を浴び

陛下の萬歲を絕叫して遂に殪れた、といふことである。君はきつと部下に率先して勇敢に進み戰つたのであらう。僕はそれを君が主將として柔道部を率ゐてゐたあの態度からだけでも充分想像することが出來る。雨注する彈丸と、その中に鋭を擧げて進む君と——君の武者振りは實に見事なものだつたであらう。

そして君はまるで

櫻・の・花・が 支那の黄色い土の上へ散るやうに散つてしまつたのだ。だが君の死は固より無駄ではない。やがて君の命の散つた後に、新しい東洋の大きい花が開くであらう。君はそれを信じ、また君は祖國と君自身の性質とに殉じたことに滿足して、君の壯烈な、しかも柔和な死顏の上には明るい微笑があつたであらう。さう思つて僕は君の靈を慰め、又僕自身の心をも慰めてゐた。

牛

カメラクラブ　松山勝衛

滿洲旅行

斷・片

X・Y

何か自分が思つたこと考へた事が時には社會の深刻な何ものかにふれる事があつたり批判してをつたりする事があるが自分では氣が付かないでゐるものだ。——この斷片を書いた譯——

變な

旅行談 を聞くよりもまとまつた書物を讀む方がいゝ場合がある。それで私は滿洲の事情に就いては滿洲帝國特許滿洲事情案內所發行の書物をおすゝめする、これは私の變な話よりより興味的で有意義だと思ふが遺憾ながら滿洲の知識階級の動向に就いては餘り書かれてゐない。私達は滿洲の思想的なものを知つて置かなければとんだ誤解を惹起するかも知れない。甚だしい人になると滿洲には知識階級の人は全く居ない、居つたとしても氣息奄々として何物もなす可き積極性がないと思つてゐるかも知れない。が滿人と日系の知識階級の人達に依つて現在の滿洲は新しく立上つた觀がある。

滿洲の文化運動が如實にこれを物語り協和會の存在がクローズアップされる。滿洲は野蠻の國でも中世紀的な暗黑の世界でもない。近代文明と近代文化の粹を持つて形成せられつゝある。大連は別としても奉天、新京、哈爾賓を中心とした求心的な文明、文化は各個の知識階級の人々の黎明の鐘をまちあこがれてゐる。それ等の組織とか系統は滿洲事情案內所に讓る。が特筆しなければならないのは最近彼の地で活躍してゐる邦人知識階級の人々のことである特に關大の先輩の例をとつてみよう。昨年學校を卒へた若い先輩に「あなたは何故滿洲に來たのですか」と云ふ質問をした。「私は從來の自由主義への讚美をもろくも夢の如く消へ去らしめた反動主義への反省は

思想的 な混亂をもたらしめた。私は大陸へその解決を求めて渡つて來た。けれども私に與へられたものは思想的な何物でもなく實踐への默とした要求に過ぎなかつた」と云ふ答への中に彼等の國家意識、知性の敗北とパラドクシカルな欲求は彼等の底流としてのみあり。明朗なる實行への轉向が躍剌たる滿洲帝國の基礎づけとなつてゐると云ふ事實を包含してゐることである。（某教授が學報に先蹤の母校への要求を述べられてゐたが何故要求しなければならなかつたのだらうかと云ふ氣持もこの樣なところから出てゐるのではないだらうか。內地で考へられない切實性である譯だ）滿人のインテリゲンチアについて詳細に觸り度いが滿人の僧侶、官吏、學生等の思想的部面の自覺は彼等には寧ろ

不必要 であつて日本の現狀を認識せしめねばならない丈それ丈複雑なことになる。日本との協力は肯定し助長しようとする彼等の現實主義に重大性がある。このことは白系ロシヤ人に就ても云ひ得る。——換言すれば滿洲はそれだけ日系知識人を渴望してゐるのだ——

○—○

滿洲を語る前に我々は朝鮮を忘れてはならない「誰かゞ朝鮮の文化はこりどおうの文化だと云つてゐたが半島の文化は延びやうとして延びる間がない程こりどおう的存在であつた。文化は新しく芽生へては新しくかり取られて行つたのだがしかしこれ等は半島人の無自覺性に依る。新しい眞の意味の半島人として生きることは內地人として生きることなのだ。內地人として生きてこそ半島の文化は眞に生きる」と云ふ樣なことを朝鮮の總督府精神總動員聯盟の理事玄文學士から承つた私は卓見だと思ふ——眞に半島を愁ふるが故に——然し內地の人々は半島人以上の無自覺である事を深く恥ぢた。けれども內鮮の一體は私達の責務である、共に生き共に死なければならない內地人と半島人の樂園は一つでなければならない。牡丹臺は新しい文化の金字塔と成るであらう。

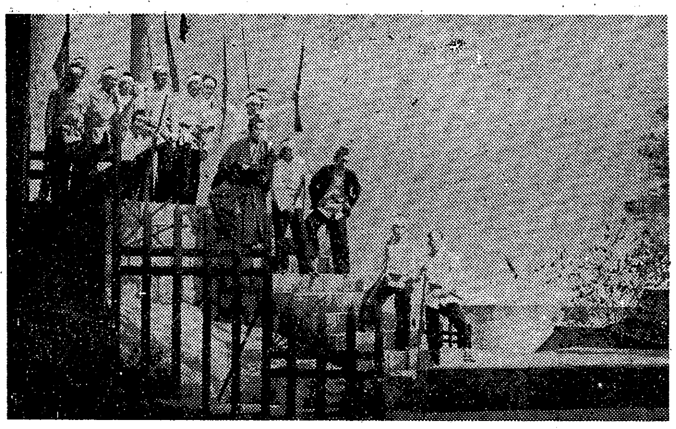
○—○

戰爭文學の特徴の一つは文學と云ふものが唯一の生命であり文學なくしては生きて行かれないと云ふ樣な死へのそれ故に文學への

切實觀 にあるであらう。文學と云ふものが遊技でも生活の糧でもなく（現實的な意味の）死であり生である樣な場合はそんなに多くあるものではない。これは單に文學丈ではなく我々自身の生活することにおいても云ひ得ると思ふ、我々は死と云ふ切實觀を或特殊な場合でしか味ひ得ない。

肉體は無自覺の甘露なのだ、過信された肉體はそれに依つてのみ生き得られると過信する、生命の姿を肉體なくしては視ることを敢てしないものだ——哲人の度々の警告を無視して——このことはあらゆるものを肉體の遊戲化してしまふ。唯心論とか唯物論とかも早問題ではなくなる。〃我〃ははつきり死をより高次に透徹化した生命を感じてこそあらゆるものはあるのである。實存とか存在とかの

哲學的 究明もその淤にある。皮相な時潮の投流は生、死の法庭で贊否を決定される。自我はやつと——その場合生命かも知れないが——安住の地を發見するために苦鬪する、それが實は世界なのだ。——この樣な氣持を滿洲が如實に私に示して呉れる。（未完）



新築地劇團大阪公演

〃海援隊〃隨感

師村督平

この劇の原作者、和田勝一はその宣傳文のうちに〃新劇人は面白い芝居を卑俗だと云ふ、しかし芝居と云ふものは面白いものでなければならぬ〃とその

抱負 の一端を述べてゐるが、從來の新劇を觀念してゐるものにとつて、この言葉はたしかに興味深い幾多の問題を含んでゐるものであつた。

だが、實際において今度の劇の失敗、どう考へても甚だ面白くなかつたと云ふことについては先づ原作の不備を指摘せねばならないとは皮肉なものだ。

彼の平凡な戲曲は阪本龍馬、陸奥小二郎その他の歷史的大人物においてさへ性格がリリーフされてゐないし、筋の發展への必然性に乏しい結果を曝してゐる。千田の演出は總體にアクセントに低調で、ポイントを失つてゐる樣だ。

幕末の封建制限制下にあつて勃勃として昂つて來た資本主義的自由思想の萠芽は二人の町人、長次郎、馬之助により封建武士階級（澤村、千家等に代表される）との執拗な對立、相剋によつて一應われわれに迫つてくるが、龍馬が現代に生きる先驅者としてのイデオロギーの曖昧さから（舞臺は終始僞瞞政策者としての龍馬がハバつてゐた）この劇を〃足を地から浮かした〃ものにしてしまつてゐる。

これはひとつは千田の演技がそう感じさせるものを持つてゐたとしても（もし丸山が龍馬を演じてゐたら幾分違つたかも知れないと云ふこと）その大半の罪は脚色者にある。だから、長次郎の死は建設日本の偉い犧牲でなければならぬ筈なのに、この劇では無意味な死に終らしてしまつてゐる。

演技は澤田は無難だが、千田のそれには多くの疑問がもたれるだらう。馬之助の[illegible]は町人の

素朴 さを生かして成功してゐる。大阪協同劇團の海老江の小細工は觀過出來得るとしても、果して新築地のアンサンブルにマッチしてゐたかどうか。女優陣は出が少かつただけにとりたてゝ云ふ程でもないが、大役を仰付かつた新人西口紀代子には一段の勉强が要求されるであらう。

第二幕二場の大膽な照明は効果的であつた。

ともあれ、秋のシーズン、トップを切つた〃海援隊〃がこれでは慘めすぎる樣だ。

話はもとへかへるが、畢竟和田勝一が云ふ芝居の面白さとは何か？

政治的、經濟的、道德的客觀社會情勢の急變移下にあつて、相變らず茨の道を

模索 する新劇に面白さへの提言は深夜のランプの如きものではなからうか。（未だ單なる觀念として、云ひ換へればスローガンとしてのみ止まつてゐるに過ぎないが）

しかし、次に來るものは當然新劇の本質論であらう。

高等專門・大學生諸士の店としての

當販賣東店はあらゆる部門の學術研究專門書を取りそろへて、常に皆樣の御來店をお待ちしてゐます。
尙、小、中、女學生の參考書をはじめ一般書籍、月刊雜誌、珈圖類も豐富に店內を充實しております。

法政　經濟　宗敎　哲學
敎育　文學　機械　工學
物理　化學・其他一般圖書

駸々堂販賣部

大阪市南區心齋橋北詰　東西兩店・電話船場一〇七番
天王寺販賣部　大阪天王寺西門前・電話天王寺二七七〇番
京都販賣部　京都河原町蛸藥師上ル西側・電本局三四八番

ヤングマン服裝專門

新らしい洋服はゼヒ!!
若人よ服裝は光る……
黑セルのなんとスマートな新しい制服の歩み　オーバーコートは少し提げさる
若人よ新しい服裝はどうぞ
若人の好もしいスタイル又仕立れの御客樣
カワイのオッサンが待つてゐる

河合洋服店
日本橋一丁目交叉點角
電話南三三八一番

國家試驗

第十一卷・第十八號　九月十五日
定價・金六十錢　送料・金二錢

—研究—
一 刑法總論講座……法學博士 [illegible]
一 大日本帝國憲法理由……法學博士 尾佐竹猛
一 民事訴訟法講座……判事 [illegible]
一 法廷に於ける辯論と[illegible]……判事 [illegible]
一 民事訴訟法講習……判事 大野[illegible]
一 最近大審院民法判例解說……法學士 中[illegible]
一 新法令の解說……法學士 中[illegible]
—試驗時報—
一 昭和十四年度高等試驗行政、司法、第二[illegible]
一 外交各科目別受驗者人員調
一 外務書記生試驗
一 辯護士試補考試合格者
一 朝鮮辯護士試驗合格者
一 法律書古本案內
—附錄—
一 高文必携主要判例集　刑事訴訟法之部　法學士 大原[illegible]

東京市本郷區森川町一七一（赤門前）
電話小石川（85）一八一一番　振替東京七二三三四七
育成洞

洋服デパート。
心斎橋筋大宝寺町角

皆樣の　同人雜誌　會誌　プリント　印刷の御用は
關西大學　學友會共濟部　天六學友會　指定
圖書出版　高級謄寫印刷　プリント　關西堂
營業所　大阪市東淀川區長柄中通二丁目　關西大學正門前
電話堀川二一七七番　振替大阪一一四、九八一番